

早稻田學報

大正八年九月十九號 四月十日發行 每月一十號發行

本號目次

意見

獨逸の教育獨逸を滅す

田中理事

校報

定時維持員會——高田終身維持員を名譽學長に推薦——田中前
理事推薦せられたる名譽理事辭任——評議員囑託——圖書館長
囑任——圖書館長事務取扱解職——故川口庶務主任に弔慰金贈
與——各科部長會——文學科教授會——政治科教授會——高等
科教授會——法科教授會——學力考査委員囑託——文科繼續教授會
入學學力考査委員會——政法商三科卒業試驗施行——高等
師範部第二部得業式——高等豫科終了證書
授與式——春季休校——各教科始業式——高等
豫科入學式——法科懸賞討論會——贊助會引續き
盛況——圖書館報告

校友會報

校友會幹事會——橫濱校友大會——舊愛組の學長招待
會——七赤會——新潟市校友會——大阪紫會——小樽校友春季
大會——校友動靜

學會會合

高等師範部教授講師協議會——高等師範部第二部講師會——早
稻田工手學校主任協議會——畔柳中田兩氏送別會——學藝會講演
大會——雜報

雜報

入學考查試驗應募の盛況——早稻田中學校
卒業式——永樂俱樂部消息——平沼學長の山梨縣
行——平沼學長の講演——志賀講師の地方講演——帆足講師
の地方講演——平沼前弓術部長に紀念品贈呈——畔柳講師の出
發——中田留學生の出發——辰野顧問逝去——野口講師嚴君逝
去——校僕追悼會——輕井澤野球運動場設置會計報告——吉田
東伍獎學資金應募芳名——平沼先生紀念品贈呈決算書

學生會合

擬國會——法科大會——商科三年生の謝恩會——早稻田英
語會——支那協會例會——心理學會例會——建築學科早苗會
史學會——政治科近畿人會——岡山縣人會——三重縣人會
龍原會

東京牛込

早稻田大學校友會

電話町三五〇〇番

東京八六八番口金

意見

獨逸の教育獨逸を滅す

理事 法學博士 田中 穂積

二千四百年の昔希臘のプレートーが、國家を組織する所の各人を改善するが爲めに絶えざる努力を爲す所の國が獨り永久に其の繁榮を繼續することが出来る」と述べた通り、教育ほど大切なものはないのであつて、凡そ事業の成敗でも國家社會の盛衰興亡でも、歸する所は時局に當り其の國家社會を組織する所の人々の能力手腕に依りて決するといふことは毫も疑ふの餘地ない所であつて、例へば彼の普漏西の如きは、北歐羅巴に於いて氣候凛烈に、地味礪礪に、天恵頗る貧しき地方に國を建て、僅かに二等國若くは三等國の列に在つたものが、最近二百年來猛然として奮ひ起つて、境太利亞を抑へ、佛蘭西を凌いで聯邦の盟主となり、歐洲の中原に覇を爲すに至つたのみならず、更に進んで英國の覇を摩し之を壓倒して世界に號令せんとするが如き、隆々たる國運の發展殆んど歴史上の奇蹟に類するが如き者のあつたのは、全く其の主なる原因はフリードリッヒ一世以來、教育の發達普及の爲めに全力を傾注した結果であつて、フリードリッヒ大王に至つて歐羅巴の一大勢力と認められた國運は、ナポレオンの馬蹄に蹂躪されて一大頓挫を來したが、國運を此の敗殘の悲境から救つたのは亦矢張り主として教育の力であつて、柏林大學の如きは此の危急存亡の場合に於いて創立せられ、次いでワートローの一戦にナポレオンを破つて其の獨立を

全うするや、翌年にはライン河畔にボン大學を創設し、更に降つて千八百七十年ナポレオン三世と戦つて思ふ存分會稽の恥を雪ぎ得たのは、モルトケ將軍自ら、此の大戦に於ける勝利の光榮は小學教師先づ之を擔ふべきものであると言つた如く、全く教育發達の結果に基づくことは中外共に之を認めて異論の無い所であるが、戰勝の結果アルサスローレンを合併するや、又更にストラスブルヒの大學を改造し、獨逸國內の碩學鴻儒を此處に集めて其の面目を一新した如く、獨逸は國難に遭遇する毎に教育の革新發展の爲めに力を注いで、二百年來之を以て興國の一大秘訣とし、歴代の君主宰相常に此の方針を踐踏して渝らなかつた結果は、遂に驚くべき國運の發達を見るに至つたのであつて、獨逸勃興の跡を閱すれば今更の如く教育の効果の偉大なるに驚かざるを得ない。

併しながら更に一步を進めて之を觀察すれば、さしにも隆盛を極め、強大を誇つた獨逸が、此の度の大戦に於いて四年有半の惡戰苦闘を續けた最後に至つて、土崩瓦解の悲境に陥り、未來永劫盤石の如き搖ぐことなしと信ぜられた、ホーヘンツォレルンの社稷がはしなくも沙上の樓閣の如く俄然として覆へり、所謂國亡びて山河在りと云ふ様な、全く意想外の事態を現出するに至つたのは、是れ亦誤れる獨逸の教育の結果であることは毫も疑を容れざる所であつて、獨逸を勃興せしめたものは教育の力であるが如く、獨逸を滅したのも亦矢張り教育であると言はざるを得ない。然らば獨逸の教育は如何なる點に於いて誤つて居つたかといふに、一言にして言へば獨逸の教育は偏狹なる國家至上主義の教育であつた、即ち國家の發達富強、之れが教育上の唯一の理想であつて、此の理想を實現する爲めには飽まで國民は共同一致の努力を爲さなければならぬことは勿論、個人の生命も財産も總て此の理想の爲めには喜んで之を捧げなければならぬ、而して此の理想を實現するが爲めには、正義も人道も無い、如何なる不正如何なる悖德、如何なる殘忍野蠻の行爲も此の國家の發達といふ高尚なる理想の爲めであるならば、總てが神聖化さる、といふ亂暴なる教育の方針が今日に至るまで、始終一貫獨逸に於いて行はれ來つた、此の一大謬想が遂に獨逸の社稷を誤るに至つたのであることは、現に獨逸の教育界に於いて其人ありと知られた、ケルシエンシュタイナーの如き、公民教育を説明して斯ういふ事を言うて居る「公民教育とは共同生活の一員として其の意志を、共同生活の全體の意志に甘んじて服従させ得る人を造るのが目的である、又家族は甘んじて社會の犠牲となり、而して又社會は甘んじて國家の犠牲とならなければならぬ、凡て文化といふものは國家に在つて初めて發展するものであつて、國家が發展すれば人類も亦從つて發展すべし」と論じて居るのは、即ち獨逸の教育の根本方針を道破したものである。

祖國即ちフアテラランドの爲めには如何なる事でも平氣で斷行する、之れが最高の道德であると教へられた獨逸人の眼中には、獨逸より外に國らしい國は無いのであつて、世界の列強は丁度昔の支那が總ての外人を夷狄視した如く、現に獨逸の小學や中學の教科書の中に記載された偉人傑士といふ者は、殆んど

悉く自國の人々のみであつて、他國の著名なる人傑は殆んど記載されてない、而して偶々記載されてあつても夫れは極めて申譯的に止つて居つて、獨逸の教科書に於けるナポレオンの如きは僅に一介の武將たるに止まり、又英國のビット若くはウェリントンの如きは殆んど有るか無しかに取扱はれて居るのであつて、獨逸の教科書といふ者は矢張此偏狹なる國家至上主義の方針に依つて編纂されたものである、即ち獨逸人は自ら神の選民と信じ、獨逸は世界優等の文化國たるを信じて居るのであつて、従つて此の尊い所の祖國の獨立發展の爲め、又其の最優等の文化を世界に宣傳普及するが爲めには、如何なる手段も悉く神聖化さる、者と謬信して居る、そこで彼等の他國人に對する態度は實に傍若無人を極めるといふことになるのは蓋必然の勢であつて、此の度の大戦の初めに當つて獨逸の大學者名

の教授九十三名は連署して、獨逸の軍隊が白耳義や佛蘭西に於いて、あらゆる殘虐野蠻の行爲を敢てした其の亂暴狼籍に對して、一人の學者も眞面目に事實の研究をする者なく、徹頭徹尾祖國の爲めに之を辯護して憚らなかつたといふ事は、眞理の探究に一身を委ぬる學者の態度としては、實に醜態を極めたものと言はなければならぬのである。

併しながら偏狹なる國家至上主義の謬想が骨髓に徹して、病既に膏肓に入り正義も人道も見別くることの出来ない獨逸學者の態度としては必しも、怪しむに足らざる所であつて其の正義人道を無視した結果は英國を驅起せしめ、遂には亞米利加までも奮起せしめ、獨逸に對して戰を宣したるものに於いて十八個國の

多きに達し、殆んど世界の國といふ國を相手にして戦つて、全く四面楚歌の重圍に陥り、四年半の惡戰苦闘の結果は國力全く消耗して再び起つた力なく、聯合軍の軍門に絶對降伏を餘儀なくされて、さしに強大を誇つた一大帝國が其の根柢から土崩瓦解の慘狀を見るに至つた、此の一大事實は實に一國の教育方針の忽にすべからざることを示した所の大教訓であつて、國を興す者は教育であるが如く國を滅す者も亦教育なりと言はざるを得ないのであつて、如何なる種類の教育でも教育さへ盛んになれば國家の隆興期して待つべしと信するならば、夫れは非常な間違たることは獨逸の活歴史が是れを示して餘蘊なしと云ふべしである、即ち國家興亡の鍵鑰は教育の方針如何にありとすれば、教育の方針を立つる慎重ならざるを得ない。

校 報

●定時維持員會 三月八日午後二時恩賜館會議室に於いて開會。出席は大隈會長、高田早苗、平沼淑郎、淺野應輔、鹽澤昌貞、田中穂積、宮田脩、渡邊亨、増田義一、上原鹿造、金子馬治、松平康國各維持員にして、終身維持員高田早苗氏を名譽學長に推薦の件其他に就き協議決定する所あつて散會せり。

●高田終身維持員を名譽學長に推薦 三月八日開會の維持員會に於いて終身維持員法學博士高田早苗氏を全會一致を以て名譽學長に推薦せり。

●田中前理事推薦せられたる名譽理事辭任 三月八日開會の維持員會に於いて前理事田中

唯一郎氏を全會一致を以て名譽理事に推薦したる所同氏は之を光榮として感謝せられたるも切に辭任希望につき其意に任ずるとせり

●評議員囑任 八日開會の維持員會に於いて校規第六十七條第一項に依り中村房次郎氏を評議員に推薦し、又其第二項に依り理工科教授會より教授小林久平氏を選出し、又鳥根縣校友會より故星野評議員の補缺として並河正氏を選出し來りたるに依り右三氏を本大學評議員に囑任若くは承認せり。

●圖書館長囑任 教授安部磯雄氏に本大學圖書館長を囑任せり。

●圖書館長事務取扱解囑 前項圖書館長囑任と共に學長兼圖書館長事務取扱平沼淑郎氏の兼職を解囑せり。

●故川口庶務主任に弔慰金贈與 故庶務主任川口潔氏多年の功勞を慰藉せん爲め弔慰金を贈りたり。

●各教科長會 三月十一日午後二時恩賜館會議室に於いて各教科長會を開き、教務に關する打合せ協議を爲したり。

●文學科教授會 三月十二日午後二時會議室に於いて文學科教授會を開き、學科課程に關する件其他に就き協議せり。

●高等豫科教授會 三月十四日午後一時會議室に於いて高等豫科教授會を開き、修了及進級試験成績判定會委員選定に關する件其他に就き協議せり。

●商科教授會 三月十八日午後三時會議室に於いて商科教授會を開き、卒業及進級試験發表に關する件、新學年學科配當に關する件、其他に就き協議せり。

●法科教授會 三月十九日午後零時半會議室

に於いて法科教授會を開き、卒業及進級試験成績發表に關する件、學科課程に關する件、其他に就き協議せり。

●政治科教授會 三月十九日午後三時會議室に於いて政治科教授會を開き、卒業及進級試験成績發表に關する件、學科課程に關する件其他に就き協議せり。

●文科繼續教授會 三月二十日午後三時會議室に於いて三月十二日の繼續教授會を開き、前回未了の案件を議せり。

●高等師範部成績判定會 三月廿四日午後一時會議室に於いて高等師範部第二部卒業試験成績判定會を開きたり。

●學力考查委員囑託 四月一日より專門部、高等師範部、高等豫科入學學力考查試験施行に就き、之れが考查委員を左の如く囑託せり。

專 門 部

勝俣詮吉郎 藤野 了祐 菊池三九郎

高等師範部國語漢文科

永井 一孝 松平 康國 牧野謙次郎

同 部英語科

中桐確太郎 岸本能武太 宮井 安吉

高等豫科

富田逸二郎 大久保常正 岡村 千曳

高谷實太郎 民野 雄平 中村 仲

藤野 了祐 前橋 孝義 牧野 鑑造

宮井 安吉 關野 九郎 崎田喜太郎

高等豫科入學學力考查委員會 三月十七日

午後二時會議室に於いて高等豫科入學學力考

查委員會を開き四月一日より入學學力考查試

驗施行に就き、學力考查科目、問題選定、試

驗成績發表其他に就き協議する所ありたり。

●政、法、商、三科卒業試驗施行 大學部政治經濟學科、專門部政治經濟科。大學部法學科專門部法律科。大學部商科の卒業試驗を左の日割を以て施行したり。

學 科	授業終了	溫習期間	試驗期間
政法商各	三月廿九日(土)	自三月卅一日(月)	自四月五日(土)
科三學年	至四月四日(金)	至同十一日(金)	

高等師範部第二部 得業式

三月廿九日午後一時高等師範部第二部第七回得業證書授與式を舉行したり。詳細は次號に記載すべし。

高等豫科修了證書 授與式

四月十四日(月)午前十時高等豫科修了證書授與式舉行の筈なり。詳細は次號に記載すべし。

●春季休講 四月七日(月)より同十二日(土)まで春季休校を爲したり。

各教科始業式

四月十四日午前十時各教科新學年始業式舉行、翌十五日授業開始の筈なり。詳細は次號に記載すべし。

高等豫科入學式

四月十二日(土)午後二時半より高等豫科入學式舉行の筈なり。詳細は次號に記載すべし。

●法科懸賞討論會 三月廿一日(金)午後一時
物理學教室に於いて法科懸賞討論會を開き、
教授副島博士の出席に係る討論題
國務大臣は授爵及宮内官任用に關し輔弼の
責に任するや

に就き討論ありたるが、討論審判の結果受賞
の榮を得たるは左の諸氏なり。

- 一等賞 專門部法律科三年 毛受 信雄
- 二等賞 同 上 二年 高井 忠夫
- 三等賞 同 上 三年 外岡茂十郎
- 四等賞 同 上 二年 廣重慶三郎
- 五等賞 同 上 二年 保科 市松
- 六等賞 同 上 二年 名木 雄次
- 七等賞 同 上 三年 寺尾卯之助

●賛助會引續き盛況(第四回)

我早稲田大學賛助會に對する校友並に校友以
外の諸君子の同情引續き深厚にして其後接受
したる申込口數、芳名左の如く、深く感謝に
堪えざる所なり。

口數	府縣	氏名
一、七口	東京	松永 安衛殿
一、二口	東京	大村 隆行殿
一、三口	東京	林 行彦殿
一、五口	東京	市川 正爾殿
一、一口	東京	小林 梯司殿
一、一口	神奈川	小林伊太郎殿
一、一口	佐賀	野中 藤作殿
一、一口	長崎	澤守源重郎殿
一、一口	靜岡	三谷 讓殿
一、一口	大阪	牛島禎太郎殿
一、一口	千葉	岩井力三郎殿

一、二口	東京	小倉 秀道殿
一、二口	東京	岩下 天年殿
一、二口	東京	星野 久殿
一、二口	東京	高信 孝治殿
一、二口	東京	大江乙亥門殿
一、二口	東京	有本歡之助殿
一、一口	東京	松山 二郎殿
一、一口	東京	中島 德行殿
一、一口	東京	原 達平殿
一、一口	東京	澁澤壽三郎殿
一、一口	東京	稻田 讓殿
一、一口	東京	森川 石抹殿
一、一口	東京	伊藤 博文殿
一、一口	東京	大橋 福松殿
一、一口	東京	原田 雄次殿
一、一口	東京	佐藤 三郎殿
一、一口	東京	原 嘉道殿
一、一口	東京	丘心 榮殿
一、一口	新潟	猪瀬 誠意殿
一、一口	新潟	北條 歡殿
一、一口	東京	加藤太喜治殿
一、一口	東京	立花 寬篤殿
一、一口	東京	鹿毛 三吾殿
一、一口	東京	深澤 政介殿
一、一口	東京	大西進八郎殿
一、一口	東京	土師 寅造殿
一、一口	東京	大島理太郎殿
一、一口	東京	堀谷左治郎殿
一、一口	神奈川	黒田傳三郎殿
一、一口	鳥取	林 尙夫殿
一、一口	山梨	長谷川苗實殿
一、一口	大阪	生駒吉之助殿
一、一口	大阪	千葉 隆殿
一、一口	大阪	大山國太郎殿
一、一口	廣島	原田 瑞道殿
一、一口	兵庫	財間 堯雄殿
一、一口	福岡	樋口 巖殿
一、一口	群馬	齊藤 政治殿
一、一口	大阪	西尾 謙吉殿
一、一口	神奈川	渡邊 漸殿
一、一口	大阪	村田秀太郎殿
一、一口	兵庫	八田 喜三殿
一、一口	大阪	大岩 篤治殿
一、一口	東京	小川政次郎殿
一、一口	東京	依田 直吉殿
一、一口	東京	川手龜之助殿
一、一口	東京	飯塚 知信殿
一、一口	東京	片岡 久宏殿
一、一口	東京	荻窪 潔殿
一、一口	東京	渡邊 安雄殿
一、一口	東京	田中 藏造殿
一、一口	東京	田部 信秀殿
一、一口	東京	横尾 清殿
一、一口	東京	田坂 貞雄殿
一、一口	東京	星野 剛男殿
一、一口	東京	富田亥之七殿
一、一口	東京	佐藤吉六郎殿
一、一口	東京	荻島 遠殿
一、一口	東京	仲宗根玄愷殿
一、一口	東京	野中中太郎殿
一、一口	東京	鹽田 敬吉殿
一、一口	東京	松橋 勝殿
一、一口	東京	田村 基殿
一、一口	東京	渡邊幾治郎殿
一、一口	東京	伊佐山清次郎殿
一、一口	東京	富澤 充殿
一、一口	岡山	金光 文孝殿
一、一口	岡山	笠原養治郎殿
一、一口	山梨	金丸親太郎殿
一、一口	神奈川	吉岡長四郎殿
一、三口	大阪	岡橋芳太郎殿
一、一口	大阪	田端 秀雄殿
一、一口	大阪	田中宗太郎殿
一、一口	和歌山	田中安太郎殿
一、一口	兵庫	天野 康夫殿
一、一口	東京	津田 信卿殿
一、一口	東京	志賀 定一殿
一、一口	東京	對島 謙尚殿
一、一口	東京	三好 貞雄殿
一、一口	東京	下村 正治殿
一、一口	東京	中江 爲之殿
一、一口	東京	前坂重太郎殿
一、一口	東京	藤井 信殿
一、一口	東京	植松 千次殿
一、一口	東京	佐々木五郎殿
一、一口	東京	上田 輝雄殿
一、一口	東京	河野 應殿
一、一口	東京	山本市良次殿
一、一口	東京	古賀 貞雄殿
一、一口	東京	奥田 雲藏殿
一、一口	東京	長松 雪夫殿
一、一口	東京	小田原秀太郎殿
一、一口	東京	吉田 保榮殿
一、一口	東京	石井 良藏殿
一、一口	東京	川澤清太郎殿
一、一口	東京	島海 武夫殿
一、一口	東京	富田儀三郎殿
一、一口	東京	田部種之助殿
一、一口	東京	土肥 政勝殿

一口	東京	山崎 義雄殿	一口	神奈川	熱田 助殿
一口	東京	阿由葉正一郎殿	一口	神奈川	矢澤 信義殿
一口	東京	吉成 春吉殿	一口	神奈川	石垣猪之吉殿
一口	東京	星野辨五郎殿	一口	神奈川	北條清一郎殿
一口	布哇	富川 勇三殿	一口	神奈川	小山 蕃殿
一口	臺南	富山 實殿	一口	神奈川	小林 義實殿
一口	臺北	小野得一郎殿	一口	神奈川	平田 保殿
一口	支那	原 茂吉殿	一口	神奈川	上坂 西藏殿
一口	岡山	原 澄治殿	一口	神奈川	三浦 義邦殿
一口	北海道	大瀧林之助殿	一口	神奈川	岩崎 次郎殿
一口	大連	今西 莞爾殿	一口	神奈川	深井 英男殿
一口	兵庫	田口 大介殿	一口	神奈川	奥田 源三殿
一口	埼玉	河田滿瑳之殿	一口	神奈川	青木 俊治殿
一口	天津	堀籠虎之介殿	一口	神奈川	飯島 信道殿
一口	東京	關 和知殿	一口	神奈川	加納 幸雄殿
一口	東京	三木 武吉殿	一口	神奈川	稻生 六郎殿
一口	東京	町田 忠治殿	一口	神奈川	飯田 廉殿
一口	東京	山道 襄一殿	一口	神奈川	恒川 茂助殿
一口	東京	田中 萬逸殿	一口	神奈川	野村 由巳殿
一口	東京	鷗澤 宇八殿	一口	神奈川	眞弓甚五郎殿
一口	岡山	西村丹治郎殿	一口	神奈川	大庭 辰三殿
一口	東京	大内 暢三殿	一口	神奈川	横山壽三郎殿
一口	東京	堀川 美哉殿	一口	神奈川	田村 柳吉殿
一口	東京	荒卷 繁藏殿	一口	神奈川	高木信太郎殿
一口	東京	北村民三郎殿	一口	神奈川	謙田金之助殿
一口	東京	中村 厚殿	一口	神奈川	河野 通憲殿
一口	天津	小川 親篤殿	一口	神奈川	小川 保次殿
一口	山梨	山下覺次郎殿	一口	神奈川	北原 光躬殿
一口	福島	櫻井 友造殿	一口	神奈川	志茂 成保殿
一口	秋田	松井祝喜治殿	一口	神奈川	小島 英之殿
一口	岡山	大月 良輝殿	一口	神奈川	新宮 公民殿
一口	愛知	井上 繁治殿	一口	神奈川	栗原 雅信殿
一口	神奈川	堀 晋吉殿	一口	神奈川	有地 行一殿

●圖書館報告

●本館二月分閱覽統計及新加圖書左の如し。
開館日數 二十七日

種別	閱覽人員	貸出圖書數
學生貸出	一四、七〇九	二七、二八九
特別貸出	五〇	一八一
館外貸出	一五七	二、五九九

一口	神奈川	下條 親雄殿
一口	神奈川	田中 清治殿
一口	神奈川	佐藤 光尾殿
一口	神奈川	玉置 定彦殿
一口	新潟	齋藤喜十郎殿
一口	新潟	齋藤庫四郎殿
一口	臺灣	堀江 正吾殿
一口	兵庫	直原 四郎殿
一口	北海道	關口 乙殿
一口	香川	中野千太郎殿
一口	三重	高橋 幸士殿
一口	大阪	異 精一殿
一口	香川	岡 侃殿
一口	東京	高村 邁一殿
一口	東京	忍 健夫殿
一口	東京	新井 正雄殿
一口	東京	百瀬 善重殿
一口	東京	佐々木四郎殿
一口	東京	津田信太郎殿
一口	東京	中山 法城殿
一口	東京	中西 順二殿
一口	東京	中尾清太郎殿
一口	東京	内ヶ崎作三郎殿

(以下次號)

公衆貸出 三三四
合計 一五、二三〇
一日平均 五六四・〇〇
●圖書新加月報 本館二月分新加圖書は總計二百二十八部五百三十一冊にして、内洋書百四十九部二百九十六冊、和漢書七十九部二百三十五冊也。之を細別すれば左の如し。
洋書新加統計表

部	門	購入	寄贈	合計
A	歴史傳記	一	二	三
B	法律	二	三	五
C	哲學	五	五〇	五五
D	政治	三	四	七
E	經濟財政	二	一	三
F	文學	四六	一〇三	一四九
G	語學	五	五	一〇
H	地理、紀行	九	九	一八
I	教育	一	一	二
K	理學、工學	一八	二三	四一
L	社會學	五	五	一〇
M	美術工藝	一	一	二
N	宗教	一	一	二
P	辭書	二	二	四
Q	統計報告	一	一	二
T	商業交通	三	三	六
Z	圖書館書史學	二	二	四
合	計	九三	一五〇	二四三

和漢書新加統計表

部	門	購入部數	寄贈部數	合計部數
伊	歷史、傳記	一	六	七
呂	地理、紀行	一	一	二
波	宗	一	二	三
仁	哲學、經濟學、倫理學	一	二	三
保	法	一	二	三
邊	政	一	二	三
登	經濟、財政	一	二	三
知	統計、報告	一	二	三
利	國文學	一	二	三
奴	理學	一	二	三
留	教	一	二	三
遠	小	一	二	三
和	支那文學	一	二	三
加	字書、語學	一	二	三
多	美術、工藝	一	二	三
連	產	一	二	三
曾	隨筆、叢書	一	二	三
津	體操、遊戲	一	二	三
真	兵	一	二	三
武	醫	一	二	三
合	計	二二	六六	七九

●記念寄贈金 教授寺尾元彦氏母堂は先般高齡にて病歿されたるが、此度記念として金五拾圓を、又校友崎山刀太郎氏は亡大人記念と

して同じく金三十圓を、共に本館圖書購入費中へ寄贈せられたり。茲に謹で其厚意を謝す。

校友會報

●校友會幹事會 三月十二日午後五時永樂俱樂部に於いて校友會幹事會を開く。出席は平沼會長を始め

山田英太郎、田中穂積、増田義一、前田多藏、名取夏司、崎山刀太郎、山田末吉、小野義夫、鈴木佐平次、翁立旨、萩島遠、吉田秀人、山ノ内弘、伊地知純正、安川隆治、星野治作、日高只一、前坂重太郎、池内恭三郎、片上伸、都倉義一、長谷川誠也、佐藤正、中桐確太郎、石橋湛山、上井磯吉、竹野長次、野村堅、磯部倫一郎(位次不同)諸氏にして決議せる事項左の如し。

一、會務を庶務、會計、會誌編輯の三部に分ち幹事を各部に分配する左の如し

▲庶務幹事 貳拾名

名取 夏司 森 盛一郎 崎山刀太郎
山田英太郎 田中 穂積 増田 義一
馬屋原仙一 原田駒之助 山田 末吉
小野 義夫 鈴木佐平次 翁 立旨
萩島 遠 吉田 秀人 山ノ内 弘
大澤 一郎 山口 剛 山本 忠興
伊地知純正 前田 多藏

▲會計幹事 拾名

田中小太郎 小松 林藏 安川 隆治
星野 治作 日高 只一 村井 五郎
黒田善太郎 今橋 稔一 前坂重太郎
池内恭三郎

▲會誌編輯幹事 拾名

片上 伸 都倉 義一 長谷川誠也
佐藤 正 中桐確太郎 石橋 湛山
上井 磯吉 竹野 長次 野村 堅
磯部倫一郎
二、各部委員は互選を以て主務委員各三名を置く事

(互選の結果如左)

(庶務)名取 夏司 山田英太郎 田中穂積
(會計)田中小太郎 安川 隆治 日高只一
(會誌編輯)片上伸 長谷川誠也 佐藤 正
三、校友會規則第二十三條の常任者を置くべきや否やは右九名の主務委員に附託すること
四、同第二十四條の書記及雇員任用の件も前項同様主務委員に附託すること
五、本年度の豫算編成に就ては會計主務委員に附託すること

以上

右終て幹事一同は今回早稲田大學が計畫せる大學基金募集に關し其委員たることを全會一致にて申合せたり。終て閉會。

●横濱校友大會

横濱校友會は種々の成り行きより暫く開催の運びに至らざりしが、有志幹旋の下に三月六日午後五時同市銀行俱樂部に於いて久方振りにて開催せられ、母校より理事田中博士、贊助會幹事難波理一郎氏同伴臨席せられたり。

一、横濱校友會選出評議員として大濱忠三郎氏を舉ぐる事
一、田中弘藏氏を推薦校友として母校に推

薦する事

を決議し、後ち宴に移る。席上田中博士母校の近狀を詳述して挨拶に代へられ、後ち會員各自の席上演説の氣煩當る可らざるものあり十二分の歡を盡して散會せるは午後十時。出席は田中博士一行の外左の諸氏なりき。

岡谷左治郎 岡部菊太郎 岡田 猛熊
渡邊 漸 柿沼 達雄 依田 彌助
瀧澤 又市 玉置 定彦 野村 洋三
栗原 雅信 山下 清一 金 慶吉
佐藤 光尾 佐伯 妙智 三崎 正敬
三宅 馨 篠原 克慎 關戸 信次
鈴木 雄治 倉橋 潔 池田 三平
田中 弘藏 (位次不同)

●舊愛組の學長招待會 三月八日午後六時四ツ谷三河屋洋食部に於て舊愛組會の平沼學長就任祝賀會開かる。在京者七名中左五名參會。

菊 地 喜一 宇田川 清兵衛
相 澤 彰 土屋 啓造
中 村 厚

地方在住會員大塚祐壽、島鳳吉、竹内德太郎、鯉淵豐貞の諸氏より各祝電あり。

宴會後紀念攝影をなして散會したるは午後九時半なりき。(土屋報)

●七、赤會 大正七年大學部政治經濟學科出身の京、阪、神在住者は一月二十七日神戸相生町三輪亭に新年會を催して舊交を温む。各自實社會生活の所感と過ぎし學園生活の懷舊談とに花を咲かし、放談高笑十二分の歡を盡し、終りに『都の西北』を唱へ母校の隆昌を祝し午後十時散會す。當日出席左の如し。

大坪 徹心 高木 登 正山 三郎

牛島慎太郎 立花 貞尋 堀見 潜鰐
富井 常臣

尙ほ此の會合に於いて滿場一致左の決議を爲せり。

一、本會を七赤會と稱す

一、本會は大正七年度大學部政治經濟科出身京阪、神在仕者を以て組織す

一、本會は多年學園生活の舊交を將來に持續せしめん爲めに組織す

一、本會の事務處理の爲め 事務所を大阪校友俱樂部内に設く

一、本會に若干の幹事を置いて 事務の處理を爲さしむ

一、本會維持の爲め經常費年壹圓を徴す 但し年二回に分納することを得

●新潟市校友會 校友安倍邦太郎君が歐米各地の經濟狀況其他の觀察を兼ね近く漫遊の途に上らるゝので我校友會は其行を壯んならしむる爲め、三月十三日午後六時鍋茶屋に送別會と共に春季校友會を開いたが、出席者は左記の諸君であつた。幹事舟崎仁一氏開會の挨拶を兼ねて同君に對する衷心の希望を述べ、安倍君は之に對し謙讓の態度を以て謝辭を述べ、且つ旅行の順路とを話して其席に著かれた愈々宴會の舞台に入らんとせる利那先輩松井郡治君より大隈總長高田名譽學長の兩閣下に祝電を發しては如何にとの動議が出た。滿場異議なく直に幹事に於て之を起草した。處が「健康とありて御健康」と書かないで「ゴ」の字を加ふへしとの御叱りを蒙つた。固より幹事不敏と雖敬語を省略するの非禮なることを知る者ではあるが、全文より見れば必らずしも敬意を缺いて居ないのである。併し禮は厚きに失するも不當でないから其通りに加入したのである。抑々之が此宴會を盛かんならしむ

る動火線となつて氣焔の揚がると恰も猛火燎原を掠むるの勢ひであつた。世上痛にして快なる事多しと云ふも、兄弟も當ならざる校友の一團が胸襟を披ひて痛飲論議するが如きは正に特筆すべき一大快事である。我校友會の爲め多年幹事として盡力して居た荒川謙二君は偶々外國寒冒にかゝつて未だ全快と云ふ迄に至らないにも拘はらず、安倍君の爲め強ひて御出席下さつたのは何とも云へない嬉しさと温かみを感じた。幹事は當夜君の健康を心配して居た處が、驚く勿れ平素の如く欣々と祝杯を傾けて居つた。君も亦徹頭徹尾龜黨の本領を失はない人である。又木村良一君は感々東京より出席して呉れたのである。同君が如何に新潟校友會に戀々たる情緒の存するかは之で窺ひ知ることが出来るのである。尙一つ同君は幹事に對し口約が結ばれてある。夫れは理山の如何を問はず、缺席すれば五十圓を提供すると云ふことである。契約自由の原則上、斯ることは大に歡迎すべきであるが、會費多端の折には恰も涙を呑んで馬を斬ると同じく、一二回位の缺席を歡迎することなきにしもあらずである。同夜九時過歡談の裡に閉會を告げた。が、斯る盛況を見るは我校友會の誇る可き特色にして、畢竟母校學園の賜であることを茲に牢記するの光榮を有するのである。(天涯生)

安倍邦太郎 松井 郡治 松木 弘
廣島 一郎 荒川 謙二 安藤 文祐
高橋 銳二 石塚 三郎 川上 法勵
大科 泰輔 齋藤 直祀 今川 幸吉
金子 勇司 本間 勇 白石 倉吉

安倍 邦吉 小出喜八郎 笹川加津恵
佐藤 與一 木村 良一 清水 脩策
清野 與平 小林 存 小黒 猶一
吉川 大助 町田喜三郎 齋藤庫四郎
舟崎 仁一
●大阪紫會 大阪市に居住せる商科出身校友にて組織せる大阪紫會は一月十五日南區戎橋南詰明陽軒にて例會を開催せり。當日は定刻より多數會員參集し、午後六時開會。伊藤幹事の開會の挨拶に次いで會計報告あり。續いて新に當市に赴任せられし日清生命大阪支社の高島君の紹介を終りて宴を開く。宴漸く酣に至りて會員各自自己紹介始まり、各自氏名職業住所を告ぐると共に所感を披瀝する者氣焔を吐くもの相次いで起り、座興大に湧く。次いで早瀬幹事の發議に依り、本年度新幹事改選に移りしも、西尾君の動議にて新幹事は當番幹事の推選と決し、幹事協議の上左記諸氏を新幹事に推選し、改めて諸氏を紹介す。斯くて興趣益到り、午後十時各自十二分の歡を盡して散會せり。
因に當日は紫會開催以來、最も多數の會員諸氏參會せられしは當番幹事一同の感謝する所なるも、之れを現在大阪市にある約四百名の商科出身者に比すれば、僅に一割の出席者ありしに過ぎざるは甚だ遺憾と爲す。よつて今後は同會の盛大を計り併て會員相互の連絡を保つ爲め、一層奮つて參集せられん事希望に堪へず。尙爾今大阪市に來任の商科出身の方は西區敷南通日清生命保險株式會社大阪支社内紫會宛住所職業を御通知に預り度し。當日出席の會員諸氏左の如し。

(△印を附せしは新幹事なり)
●増田幸次郎(大正七年度) ●△園生湖太郎(四十一年度) ●△高島徹(四十二年) ●△横山包隆(大正六年度) ●早瀬太郎三郎(四十年) ●丸茂忠郎(四十一年度) ●△林平藏(大正二年度) ●押田辰生(大正七年度) ●谷田川元保(四十三年) ●松田俊吉(大正七年度) ●田名部孝太郎(四十三年) ●△△吉岡新八(四十五年) ●内田茂(四十年) ●水谷操一(四十年) ●森下政一(大正五年度) ●朝倉好三郎(大正六年度) ●森太三郎(四十四年) ●村田秀太郎(四十三年) ●久保源九郎(四十五年) ●寺田英三(四十年) ●△田中宗太郎(大正五年) ●前田利一(四十四年) ●矢野剛(大正五年) ●川端道弘(大正七年) ●川竹成一(四十五年) ●清水慶之助(四十三年) ●高田通泰(四十三年) ●加藤貞二(大正五年) ●伊藤孫作(四十三年) ●武良亮一(大正七年) ●△藤川主英(大正三年) ●生駒勘左衛門(大正四年) ●於勢升(四十二年) ●江指盛一(四十一年) ●平田茂樹(四十三年) ●岡田正太郎(四十一年) ●△近藤直吉(四十四年) ●横山常次(大正三年) ●△平木和平(四十年) ●△山口衛(四十三年) ●松山恕平(大正五年) ●築崎晨三郎(大正五年) ●△松崎音松(大正七年) ●西尾謙吉(四十三年) ●安部一男(四十四年)
尙ほ當日出席なかりしも、山田伊太郎(大正四年度) 氏をも幹事に推選せり。(A、K生報)
●小樽校友會春季大會 小樽校友會春季大會は會員奥忠彦氏(日本銀行支店長)の歡迎並に會員志田勝氏(四社賣炭所長)の送別を兼ね二月十日午後六時開陽亭に於て開催。先づ嘉納幹事より前年度會務會計の報告に次で新幹事の指名を終り、一同異議なく
加納雅次郎 西島 元甫 東田 基見
の三氏を八年度常任幹事に推薦し、一同宴席に著き奥氏歡迎志田氏別宴に移り、嘉納幹事

の歡迎辭と送別辭に對して奥、志田兩氏夫々鄭重なる挨拶あり。新舊幹事は數十名の紅裙と共に酒席を輪旋し、手踊茶番等の餘興ありて歡談更の閑くるを覺えず。今井幹事の音頭にて「都の西北」の校歌を合唱し、奥忠彦氏の發聲にて母校の萬歳を三唱して九時散會せるが、出席者は奥、志田の正賓を合せ二十六名にて、近來稀有の盛會なりき。尙奥志田兩氏より當夜同會に多額の金圓の寄贈ありし由。出席者氏名左の如し。

- 奥 忠彦 志田 勝民 (以上正賓)
今井 孝 池島 賢造 長谷川豐作
大橋 直平 東田 基見 奥井 信三
大橋 薰 渡邊 得郎 渡邊 俊郎
渡邊 昇平 和田 信一 加納雞次郎
嘉納虎太郎 川南 重祐 吉本 勇
田村 寛次 牛尾 英二 山内重次郎
山田直三郎 深井 貞策 栗屋 薰
阿部 長咲 佐瀬 正男 京坂 重雄

●校友動靜

- 校友諸氏の動靜左の如し。
●大西萬丸(6專政) 大阪西區南恩賀島町大阪製鐵株式會社に轉勤
●山田純忠(7大政) 京都市富小路村井銀行京都支店勤務
●藤堂晴美(6專政) 大阪市西區九條南通四ノ三一七に於いて石炭商經營
●足田直雄(5專政) 大阪市株式會社足田鐵工所に勤務(同市西區新築屋町一六二)
●森本一雄(4大政) 三月十七日尾崎行雄氏に隨伴歐米視察の途に就く
●田端秀雄(7專政) 東京海上保險株式會社大阪支店に勤務(大阪府泉南郡貝塚町)

- 池宮末吉(7大政) 浦潮新徳日本派遣軍司令部附政務部員
●横卯太郎(7大政) 株式會社川北電氣企業社勤務(大阪府北河内郡守口町寺内一七四)
●大橋篤之(6專政) 鶴町區有樂町一ノ四に於いて英昌洋行經營同區飯田町六ノ一三三
●峰須賀豐隆(四五專政) 東京海上保險株式會社勤務(赤坂區青山南町六ノ一三五)
●伊豆富人(4專政) 本郷區東片町四二、雜誌「我等」に入る(同社内)
●土肥圭税(7大政) 東京朝日新聞社に入る(市外淀橋町柏木九二一)
●山川弘實(三八專政) 四日迄福井縣佐佳枝上町一四一に滞在の上米國に渡航の答(3207, Tatiana St., Denver, Colo., U.S.A.)
●遠藤慈晴(三二英政) 旭陶器會社員(愛知縣西春日井郡六郷村)
●日井郡六郷村)
●四川丈雄(7專法) 大阪市川口富島町六〇株式會社富島組本店入貨係に轉勤
●山本鐵次郎(二四邦法) 日本特殊鋼工業株式會社を辭し小石川區大和町二二に居住
●水上 靜(6專法) 大阪市北區堂島濱通三丁目ホルカイト、ブラザース商會出張店勤務(大阪府下鷺洲町海老江一〇三三、森助藏方)
●村主金三郎(7大政) 神戸市北長狹通四ノ四山口運輸株式會社三ノ宮荷扱所勤務
●高橋富太郎(7專法) 埼玉縣廳勤務(同縣浦和町二四二、長沼新平方)
●内山廣三(三四行) 京都府與謝郡宮津町町長に就任(辯護士)
●二宮清徳(三六行) 國民新聞社に入る(半込區横寺町四九)
●中島定吉郎(四五大文) 北海道釧路中學校に轉任す
●丸島 敏(三七文) 三月廿一日英國遊學の途に

- 上る(留守宅、千葉縣千葉郡北生實)
●山中隆義(7大文) 藤田商事株式會社社員(神戸市三宮町一ノ三八同社内)
●滿田 勝(6大文) 鶴町區内幸町一丁目六島商店東京支店勤務
●金子榮之助(四四大商) 愛媛縣西宇和郡四ツ濱村茂木鐵業部平盤鐵業所經理係長に轉勤
●樫本哲之助(四五大商) 南洋關領セレス島メナド市南太平洋貿易株式會社支店に轉勤
●猪早不二雄(6大商) 南岸ホナベ島南洋貿易會社支店勤務
●岸本亮太郎(5大商) 神戸市三ノ宮町一丁目に於て直輸入商合資會社岸本組經營
●荊木誠三(四四大商) 小倉市鍛冶町一ノ一株株式會社祿々商店小倉出張所勤務
●田中健介(2大商) 大阪市東區今橋五ノ二八朝鮮銀行大阪支店に轉勤
●兼坂 中(四一大商) 北海道室蘭區海岸町北海道炭礦汽船株式會社出張所に轉勤
●新里藤一郎(四四大商) 日本橋區吳服町一〇、鹽水港製糖拓殖株式會社東京出張所となる(府下代々木西山谷二四〇)
●下田基治(7大商) 鶴町區錢瓶町四番地東洋製鐵株式會社に入る(本郷區湯島三組町一番地牧野茂助方)
●深見源次(6大商) 本所區業平町一七一東京瓦斯電氣工業株式會社磁器部營業所勤務(府下高田村維多利亞谷龜原七、水島方)
●香西展夫(6大商) 大阪市西區川口町二二山下鐵業株式會社大阪支店勤務(同支店內)
●土井和一(四〇大商) 大連商業銀行取締役に當選支配人に就任(同市越後町四四五)
●小田倉道三(5大商) 深川區佐賀町二ノ五七直輸入業山下太郎商店勤務(同商店内)
●前田和一(四四大商) 朝鮮京城南大門通四丁目

- 大阪産業株式會社京城出張所勤務(同出張所内)
●久野眞苗(四四大商) 名古屋市西區茶屋町株式會社伊藤銀行勤務(同市中區流川町二六)
●小原純一(四五大商) 株式會社岩井商店横濱支店輸入部主任(横濱市神奈川反町七二〇)
●立野正夫(7大商) 小倉市外北方歩兵四十七聯隊補充隊四中隊入營
●鈴木清六(3大商) 横濱正金銀行大連支店詰として同地に赴任
●市野 博(四四大商) 日本ハインツ製造株式會社勤務(府下品川町南品川宿三ツ木檜ヶ崎七八番地)
●中島傳吉(7大商) 藤本ビル、ブローカー銀行大阪本店勤務(大阪府西區北堀江通六丁目)
●副島勝三郎(7大商) 東洋汽船會社に轉勤武洋丸乗組となる
●東尾勝三(6大商) 大阪市東區上本町六丁目大阪電氣軌道株式會社に轉勤
●蟻川 章(7大商) 三井物産營業部勤務(鶴町區飯田町六ノ一〇)
●中野恭一郎(2大商) 大倉家不動産臺北管理所主任となる(臺北新起後街五五)
●郷間宗平(四四大商) 大阪市北區安治川上通一ノ九直輸出商榷山商店勤務
●倉敷 定(3大商) 讃岐丸にて南亞弗利加ケイプタウンに渡航(Yunao & Co., P. O. Box 1053, Cape Town, South Africa)
●辰己源東(7大商) 山口銀行東京支店勤務(半込區辨天町四四ノ四號)
●大林茂夫(7理工) 名古屋紡績株式會社、株式會社近藤紡績所勤務(名古屋市外八幡村名古屋紡績株式會社内)
●下村芳藏(2理工) 神戸川崎造船所より造船業見學の爲め英國へ出張を命ぜらる
●早川榮吉(6理工) 府下中野電信聯隊第一中隊

に一年志願兵として入營

●谷 快臣(6理工) 福岡縣八幡市枝光港三丁目

三葉牧山炭炭製造所勤務(同縣同市枝光犬川三葉社宅内)

●松島 清(7理工) 神奈川縣川崎町東京電氣株式會社勤務(府下大森新井宿一三九一奥方)

●栗屋忠夫(3理工) 芝區白金三光町一一七に於て電氣機械修繕業早電金經營

●松本幸四郎(7理工) 大阪市北區堂島濱通古河商事會社大阪支店に轉勤(同市東區北久太郎町一ノ二天龜方)

●竹内軌雄(4理工) 大阪電機工業株式會社勤務(大阪市東區玉造元伊勢町七九七)

●伊東幾太(5理工) 神戸市和田岬三葉造船所に轉勤

●宇佐美 胖(4理工) 大阪市西區西九條上ノ町二一〇東亞鐵工所勤務

●志村朝次郎(5理工) 橫濱市平沼町株式會社東西製作所に轉勤(同市西戶部町扇田四四四)

●太田 旭(3國) 京都同志社大學圖書館司書辭任靜岡縣周智郡氣多村氣田に歸住

●内野江一(7國) 神奈川縣足柄上郡立農林學校在勤

●秋吉幸吾(四〇國) 大分縣玖珠郡北山田村大字戸畑に歸郷

●服部 保(4英) 長野縣立大町中學校に轉勤

●山崎瀧三(四二歷) 神戸市立神港商業學校に轉勤

轉居

校友諸氏の轉居左の如し。

●島村民藏(講師) 市外高田村維司ヶ谷上り屋敷

一一一九

●兒林百合松(講師) 府下千駄ヶ谷町大字南前四

七一

●堀川美哉(四一大政) 府下千駄ヶ谷町原宿一七

〇番地

●阿由葉庄一郎(四五大政) 牛込區神樂町一ノ一

●安倍敬義(四四大政) 宮城縣栗原郡金田村一二

七番地

●三苦潔之(二大政) 支那青島若鷄町二丁目新利

洋行油房

●積古庵 修(6專政) 府下千駄ヶ谷町原宿一三

七川口方

●柏倉友之助(5大政) 本所區中郷業平町四五佐

藤健二方(時事新報記者)

●河井常三郎(7大政) 市外池袋一一一九

●山崎義雄(3專政) 府下西巢鴨町字巢鴨二四八

六番地

●河崎 清(2專政) 牛込區喜久井町三七

●中井虎六郎(二五邦政) 芝區白金三光町二七一

●池松林一(7專政) 長崎縣北高來郡諫早町乙一

〇三

●吉岡 武(四四大政) 千葉縣千葉郡稻毛鐵道官

舍内

●石黒定美(三四邦政) 愛媛縣新居郡角野村東平

●多賀谷芳三(7專政) 牛込區喜久井町六七番地

近江館

●井上松雄(7專政) 市外澁谷町下澁谷一八六

●松倉正一(3專政) 高岡市新横町

●岩永藤樹(4專政) 長崎縣東彼杵郡彼杵村

●鄭寅淵(三二邦政) 朝鮮京畿道始興郡秀岩面牧

甘里(京釜線安陽驛西方)

●小山谷藏(三一英政) 本郷區彌生町三(大學裏門

前)

●野尻藏也(6大政) 府下池袋八七三楠方

●豐田兼助(6專政) 荏原郡上大崎町三三

●前川政雄(7專法) 橫濱市本牧町字矢二五二九

●藤原藤作(2專法) 靜岡縣引佐郡西濱名村本坂

五一六

●堀 榮二(四五專法) 小石川區諏訪町五五

●磯井正一(6大法) 朝鮮水浦府竹洞

●小出順造(7專法) 大連市若狹町才區三十七號

ノ一

●田邊英生(二九邦法) 麻布區宮本町四七矢野正

一方

●角田久福(6大法) 牛込區喜久井町三四

●内田竹三郎(三一行) 露領西伯利亞チタ市

●笠羽清吉(5大文) 下谷區谷中上三崎南町三二

●花園兼定(四五大文) 淺草區松清町二七

●都筑 等(3大文) 府下大森新井宿一四〇五

●綿貫六助(7大文) 府下高田村維司ヶ谷四七一

●柏木長太郎(5大文) Kanabot Road, Singapore.

●前田 晃(三七大文) 市外高田村上り屋敷狐塚

●河面仙四郎(四三大文) Tanjong Pagar, Singapore.

●生方徹誠(7大文) 埼玉縣熊谷町橋町通倉上村

●岸田菅二(5大商) 大阪市外南海電車岸の里驛

●喜多義之(5大商) 荏原郡大井町森前五四〇四

●吉武靜哉(4大商) 府下澁谷町下澁谷羽澤三四

二番地

●櫻井芳賢(2大商) 牛込區早稻田町三一

●橋本清吉(3大商) 小石川區丸山町三一(川崎別

邸内)

●金子 謙(四五大商) 四谷區永住町二

●井上新一(四三大商) 岡山縣御津郡大野村野内

●古岩井善太郎(四一大商) 牛込區市ヶ谷宮久町

一二八

●松岡益雄(4大商) 橫濱市本牧町八王子二八五

八番地

●財岡幾雄(3大商) 兵庫縣武庫郡灘大石十二ノ

六

●多田七之助(3大商) 福岡縣嘉穂郡幸袋町磯頭

古河内

●高橋敬太郎(2大商) 下谷區上野櫻木町一七(十

五銀行員)

●小竹忠一(7大商) 牛込區下戸塚町一五箕輪方

●戸田盛貞(2大商) 府下澁谷町大字上澁谷字豐

澤一〇

●田中宗太郎(5大商) 大阪府中河内郡長吉村川

邊

●井口謹一郎(7大商) 岡山市上之町五三

●藤 純(5大商) 麴町區飯田町四ノ一二佐野

次郎方

●立川銀二郎(四二大商) 荏原郡入新井町新井宿

一ノ二六荒川方

●築田秀一(2大商) 天鹽國上川郡和寒村帝國製

麻會社和寒工場社宅内

●木村真平(4大商) 本郷區追分町三〇野澤方

●伊藤佐久良(6大商) 四谷區坂町九二

●小林孫一(7大商) c/o Japanese students, Y.

U.C.A. 633, W115 St., New York City, U.S.A.

●寺師英廣(6理工) 府下澁谷町田端二一五七

●石井 定(5理工) 神戸市兵庫濱添通三ノ四

●久場守陸(7理工) 臺北廳三板橋庄蔴仔埕四〇

●多羅尾織市(四五理工) 京都市大宮通り松原下

上五條町四〇〇

●向後順一(三六國英) 赤坂區青山北町四ノ九

四番地

●吉川 巖(四二英) 麻布區霞町一七中根方

●江草頼多(6國) 牛込區破損町五

●重松善一(7國) 福岡縣遠賀郡水巻村大字杣四

二ノ三柴田要平方

●鶴田新藏(四一國) 麴町區飯田町二ノ四七望遠

館内

改姓名

校友諸氏の改姓名左の如し。

●清谷右信(2事政) 舊姓石田(京橋區銀座三枝商店直轄部勤務)
●幹 清三郎(6大政) 舊姓内田(千葉縣長生郡五郷村一一九八)
●中原善春(6大政) 舊姓横尾(福岡縣企救郡曾根村)
●神林禮堂(4大文) 舊姓武田(淺草區田島町七)
●三井長右衛門(四一大商) 舊名周二(京都府與謝郡宮津町字本町七五八)
●下村正治(四四大商) 舊名泰平(本郷區西片町一〇、四二號)

大正七年 大學部政治經濟學科出身 富岡松太郎
明治四十三年 專門部政治經濟科出身 鹽田 武彦
大正四年 專門部政治經濟科出身 牧元 靜衛
明治二十五年 邦語法律科出身 浦野 房吉
大正三年 專門部法律科出身 田淵 國夫
大正二年 專門部法律科出身 岸川 善壽
明治二十四年 邦語行政科出身 齋藤 政吉
右諸氏の訃報に接し哀悼の至りに堪へず茲に謹んで弔意を表す

學會會合

●高等師範部教授講師協議會 三月十八日午後五時永樂俱樂部に於いて高等師範部第一部教授講師協議會を開き、學科課程其他に就き協議する所あり後ち同部の組織改善等に就き腹藏なき意見を交換して散會せり。

●高等師範部第二部講師會 別項記載の如く三月廿九日第七回得業證書授與式を舉行したる高等師範部第二部に於ては、今回の授與式にて一ト先づ結了を告げたるを以て、慰勞の爲め、同日午後五時より永樂俱樂部に於て講師會を開く。席上平沼學長及中島部長より慰勞及感謝の辭あり。之に對し講師側を代表して教授遠藤又藏氏の答辭あり。後ち談話に時を移して散會せり。出席は平沼學長、中島部長の外左の諸氏なりき。

淺野 應輔 鹽澤 昌貞 田中 種稔
遠藤 又藏 三輪恒一郎 勝藤詮吉郎
藤野 了裕 池田 清 藤井鹿三郎
秋山武太郎 前田 多藏 中村 芳雄
●早稲田工手學校主任協議會 三月十四日午後五時日本橋借樂園に於いて附屬早稲田工手學校主任協議會を開く。出席は
德永校長、淺野理工科科長、前田幹事、松本容吉、山本忠興、小室靜夫、佐藤功一(代内藤多仲)、山田胖、小林久平、定金右源二、岸畑久吉、藤井鹿三郎各主任、田井主事、片山會計
諸氏にして、教務に關する件に就き協議する所ありたり。

●畔柳、中田兩氏送別會 講師畔柳都太郎留學生中田浩兩氏の送別會を三月十五日夜永樂俱樂部に於いて開く。出席は主賓兩氏の外平沼學長を始め、
鹽澤昌貞、田中穗積、中島半次郎、増山義一、池田龍一、前田多藏、昆田文二郎、神尾錠吉、小松林藏、小林行昌、伊地知純正、土屋啓造
諸氏にして、席上平沼學長の送別の辭に對し

畔柳、中田兩氏の謝辭ありたる後ち、尙ほ數談に時を移して散會せり。
●學藝會講演 三月三十一日(月)午後五時恩賜館會議室に於いて學藝會第三回講演會を開き、左の講演ありたり。
佛蘭西民法の發達に就いて 教授 遊佐慶夫氏

雜報

入學考查試驗 應募の盛況

三月十一日より本年度入學應募の願書を受理し、之れが事務を開始せるが、高等豫科を始め專門部、高等師範部共に應募者多數昨年に比して頗る盛況を呈し、取扱事務は多忙を極め居れり。(三月廿八日稿)

早稲田中學校卒業式

早稲田中學校にては三月二十八日午後一時より其第二十一回卒業證書授與式を舉行せり。第一鐘、生徒入場。第二鐘、來賓父兄保證人及教職員入場。聽て中野校長より卒業生百三十七名に卒業證書を、各學年修業生に修業證書を、卒業生優等生九名、各學年中の優等生四十四名に優等證書を、卒業生中の特殊精勤生(在學中無缺席)八名に精勤證書を順次授與せられ、後ち大隈侯爵令夫人卒業生中の上席十五名に賞品授與あり。
終つて教頭會津八一氏の學事報告、校長中野禮四郎氏の式辭、校友會總代江部淳夫氏の祝辭、樞密院顧問官金子子爵の訓辭、東京商

業會議所會頭藤山雷太氏の訓辭、大隈侯爵の訓辭あり。後ち卒業生總代漆原義之君の答辭あり。終つて會衆一同起立君が代二唱閉式を宣し、式後別席に於いて茶菓の饗應ありて散會を告げたり。

永樂俱樂部消息

●尾崎行雄君一行招待兼午餐會 三月十二日午餐會に於て、今回歐米視察の途に就かれたる、尾崎行雄君一行の招待會を催したり。出席諸氏左の如し。

尾崎 行雄 望月小太郎 田川大智郎
來賓 出席會員(次第不同) 田中四郎左衛門
大隈 信常 鶴澤 宇八 横山 章
青地雄太郎 脇田 眞 池田 龍一
横山 隆俊 原田駒之助 早速 整爾
多川 信次 高田 早苗 高山 圭三
岡 壽 河內富次郎 反町 茂作
類母木桂吉 高橋都美武 久米伊豫太郎
奥田 雲藏 大橋 誠一 黒瀬 種吉
降旗元太郎 檀野 禮助 中野 勇平
木口 重彦 河田 哲夫 畑端 眞雄
星野 治作 鈴木佐平治 田坂 眞雄
巖谷 季雄 平野英一郎 酒井 醇一
坪谷善四郎 森 盛一郎 齊藤忠太郎
島崎 尙 増田 義一 坂本嘉治馬
山澤 俊夫 昆田文次郎 添田飛雄太郎
田中 穗積 平沼 淑郎 櫻井兵五郎
渡邊 亨 中野 鐵平 鹽澤 昌貞
磯部倫一郎 都倉 義一 旗野美乃里
橋戸 義雄 中島謙太郎 能勢 吉夫
松山忠次郎 渡邊代五郎 早川 德次
安川 隆治 三好榮次郎

櫻井彦一郎 小野友次郎 河野 九峰
小山 谷藏

●平沼學長の山梨縣行

學長平沼博士は山梨縣東八代郡有力者の企劃せる新和會發會式講演の爲め學生主任望月嘉三郎氏、校友淺川保平氏同伴三月九日午前六時新宿發にて東京を出發せられ、鹽山驛に於て新和會幹事宇佐美二實(東八代郡選出縣會議員)横山宣(同郡々會議長)、前澤又吉三氏并に山梨縣校友會代表關善治氏の出迎を受け、一同車を同うして午前十一時三十分石和驛着、前代議士宇佐美一實氏其他多數有志の出迎を受け、腕車を驅りて石和町甲運亭に入り休憩の間有志の訪問に接し、晝餐の後も、午後一時講演會場たる石和館に臨みて聴衆約一千名に對し二時間に亘る講演ありて多大の感動を與へ、閉會後、甲運亭に於ける園遊會に臨み、午後六時博士一行は出迎への校友關善治氏及校友關和知氏等と自動車驅りて甲府市外の温泉芳の湯に投じ、浴後、同所に催されたる校友小會に臨む。會する者一行の外、校友山下覺次郎(檢事正)、中村長榮、長田瑛、新津隆一、淺川湖郎の諸氏及有志宇佐美一實、宇佐美二實の兩氏、席上平沼學長は母校の近況を述べて挨拶に代へられ、一同歡談の裡に晚餐を俱にして散會。

翌十日學長一行は午前十一時四十分府發、校友代表關善治氏新和會代表宇佐美一實、同二實兩氏に依りて石和驛迄見送られ歸京の途に就かれたり。

斯くて平沼學長は途中八王子驛乗替にて横濱に向はれ、同所紀念會館開催の帝國在郷軍

人會主催の講演會に臨み、『戦後の問題』と題せる講演あり、午後十一時半横濱發歸京せられたり。

●平沼學長の講演 學長平沼博士は三月三十日午後七時、下谷御徒士町小學校内臺南圖書館主催の講演會に臨み、『讀書の趣味』の題下に約一時間半に亘る講演ありたり。

●志賀講師の地方講演 講師志賀重昂氏は三月廿四日栃木縣芳賀郡中村小學校に於て講演ありたりといふ。

●帆船講師の地方講演 講師ドクトル・フィロソフイ帆船理一郎氏は三月廿七日神戸女學院第三十六回卒業式に招待され、『日本婦人の覺醒』と題する講演ありたり。

●平沼前弓術部長に紀念品贈呈 明治三十六年本大學弓術部創立當時より部長として當部の爲めに盡瘁せられたる平沼先生は先般本大學々長に推されし爲め部長を辭され、新に小林行昌教授を部長として迎ふる事となれり。

茲に於て弓術部現部長及校友にして弓術部員たりし者相計り、前部長に紀念品贈呈の儀を議せし所、忽ちにして多大の賛成者を得たるを以て、先生の肖像畫(油繪)を額面として弓術部道場に掲げ、他に紀念品として書架參個を三月二十六日先生に呈したり。

●畔柳講師の出發 講師畔柳都太郎氏は三月十七日午前九時十六分東京驛發歐米渡航の途に上られたり。

●中田留學生の出發 本大學留學生中田浩氏は三月二十四日(月)午前九時東京驛發同午後三時横濱發鹿島丸にて米國に向け出發せられたり。

●辰野顧問逝去 本大學理工科建築學科顧問工學博士辰野金吾氏は永々病氣の處、養生不叶三月二十六日午後十一時遂に逝去、同三十日午前十時青山齋場に於いて佛式葬儀執り行はれたるが、建築界の泰斗たる氏の事とて會葬者無慮四五千名盛儀を極めたり。本大學よりは生花を靈前に供へ、平沼學長會葬せられ、左の弔辭を朗讀せられたり。

辰野博士弔辭

卓絶なる才識を以て昭代の工學を提擧したる辰野博士は天下の嘆惜を遺して遠く碧落の外に登仙せり誰か痛哭せざらん

博士が學生の功績は朝野の均しく知る所なり何ぞ贅言を須たん

吾早稻田大學は博士を銘工科建築學の顧問に仰ぎ多年其の懇篤なる指導を受けたるは吾早稻田の長く感銘する所なり

今日靈柩を拜し謹て衷情を陳ぶ

大正八年三月三十日

早稻田大學學長 法學博士 平沼 淑郎

●野口講師嚴君逝去 講師野口尙氏嚴君は三月七日逝去せられたり。

●校僕追悼會 明治三十六年以降死去せる校僕水野三藏以下十六名の靈を慰めんが爲め、三月二十二日牛込區戸塚町清源寺に於いて之れが追悼會を開く。出席は前田幹事を始め望月學生課主任、都築會計以下左記三十一名にして櫻庭達堂師衆僧を率ゐて讀經ありたる後ら、望月學生課主任左記弔文の朗讀あり終つて遺族の燒香に次いで一同燒香、尙ほ遺族に紀念品を贈り、一同茶菓の間懷舊談に故人を偲び、やがて退散せり。

遺族

星 野 林 吉 田

久保田 宮 田 島
坂 井 櫻 崎 尾 位
水 上 渡 邊
池田 七藏 佐藤 虎吉 岡本喜太郎
山本喜之助 増山 久平 松澤佐太郎
若菜 徳宗 福江助次郎 松山 小平
山森彌三郎 佐々木道次 石井繁太郎
平井覺次郎 白石 直藤 田口市五郎
倉谷 友松 大島兼太郎 大橋 吾助
會田政次郎 石川 金平

弔辭

大正八年三月二十一日早稻田大學學生課主任望月嘉三郎謹んで香華茶菓諸蓋の儀を備へ以て星野君次郎外十五名の靈を祭り専ら追慕の忱を致す惟ふに人貴賤を殊にし貧富を同ふせず其業とする所も亦千種萬類計る可らざる者ありと雖も生を乾坤の間に享け命を兩儀の中に有つ決して差等ある事なしされば各其職を竭し其責を重んじ以て己れが本分を全ふす國を治め民を安んじ玉ふ王公も田を耕し薪を採る所の農夫と其間少しも輕重ある事なし豈に貴ぶ可らずや諸君が吾早稻田大學の爲に致したる力は我等教職員が致したる所と更に異なる所なし吾早稻田が今日の發展をなすに至れるもの決して獨り我等教職員の力のみにあらず諸君が日々懈らず吾早稻田の爲に盡したる者復た與りて大に力あるなり諸君は三年五年乃至十數年の永きに亘り吾早稻田の一員となり恰も家族が其家長に盡すが如く能く命を奉じ力の限りを致したり諸君が在校中吾早稻田が諸君に報ゆる所甚だ薄かりしは慚愧に堪へざる所なるも諸君が吾早稻田の爲に遺したる功績は今猶ほ記憶して忘るゝ能はざる所のものなり今佛果深き冥辰を卜し香宿を請じ儀を修め故舊友人相聚まり懇々と諸君の爲に冥福を祈る供養する所甚だ厚からずと雖も我等の微意を諒とし諸靈向くは勞

歸として來り享けよ、

大正八年三月二十一日

望月嘉三郎

●輕井澤野球運動場

設置會計報告

收入

五〇〇、〇〇	竹内明太郎氏
五〇〇、〇〇	増田義一氏
五〇、〇〇	吉家敬造氏
七八五、〇〇	野球部先輩
一〇一八、〇〇	野球部員
三〇〇、〇〇	布哇日本人有志
一二三、九二	野球仕合入場料の内より補助
八、二六	雜收入

三二八五、一八

支出

合計

二五〇、〇〇	寄宿舍建築費
二三一、九五	寄宿舍諸設備費
四九、一二五	塞所道具
一〇四、〇〇	電燈取附費
一八、四〇	電燈料
三〇、〇〇	火災保險料
六四、八九	蒲團三組
一四、五五	通信費
九、六五	旅費
四、九三	荷物運搬費
一一、三五	運動場開場式費
二五、〇四	コーチ及來客食費
五、八〇	ロール修繕費
一〇、八〇	寄附者に贈りたる繪葉書費
七〇、〇〇	會話教師報酬
七、九〇	雜費

三一五七、九八五 合計
一二七、一九五 殘金
右の通り相違無之候也

安部 磯雄

●吉田東伍「獎學資金」

應募芳名並其金額

(第四回)

一金參圓	山崎 貞殿	一金壹圓	佐藤 堅司殿	一金壹圓	京谷勇次郎殿
一金參圓	安藤金三郎殿	一金參圓	渡邊 世祐殿	一金參圓	横田傳四郎殿
一金壹圓拾錢	遊佐 慶夫殿	一金參圓	豐田 大智殿	一金參圓	長谷川福平殿
一金參圓	百瀬 計馬殿	一金參圓	副島 義一殿	一金參圓	中村 熊男殿
一金參圓	岡本 則錄殿	一金參圓	渡邊藤十郎殿	一金參圓	山本 強哉殿
一金參圓拾錢	北澤新次郎殿	一金參圓	芝 葛成殿	一金壹圓	布施 孝殿
一金貳圓	建部 遜吾殿	一金參圓	河野通彌太殿	一金壹圓	奧 秀太郎殿
一金貳圓	長谷川彌榮殿	一金參圓	高宮 昇殿	一金壹圓	井狩 重之殿
一金貳圓	岡野 健殿	一金參圓	速水淳次郎殿	一金壹圓	佐藤 碧殿
一金參圓	石原 謙殿	一金參圓	田村 隆一殿	一金貳圓	金榮 妙峰殿
一金貳圓	淺井郁太郎殿	一金參圓	細川文五郎殿	一金參圓	若森民五郎殿
一金貳圓	山本 邦助殿	一金參圓	速水鎮次郎殿	一金參圓	時岡從太郎殿
一金貳圓	伊藤 康安殿	一金參圓	瀧井 福治殿	一金參圓	横 忠一殿
一金貳圓	岩野 軍治殿	一金參圓	阿部 真夫殿	一金參圓	宮 周平殿
一金貳圓	志田 繁治殿	一金參圓	水島 寛治殿	一金貳圓	石井 敷市殿
一金貳圓	安藤 忠藏殿	一金參圓	高津鐵三郎殿	一金參圓	田内 盛嘉殿
一金貳圓	岸畑 久吉殿	一金參圓	安倍邦太郎殿	一金貳圓	高橋都素武殿
一金貳圓	上原 靜夫殿	一金參圓	藤井 昌太殿	一金貳圓	石井勘次郎殿
一金貳圓	神戶 琳吉殿	一金參圓	佐々木義山殿	一金參圓	山崎 信明殿
一金貳圓	關谷金一郎殿	一金參圓	上原 元英殿	一金貳圓	新井智三郎殿
一金貳圓	平岡 武軌殿	一金參圓	大河内隆弘殿	一金貳圓	木村 晴光殿
一金貳圓	木藤 長殿	一金參圓	齋藤時之助殿	一金貳圓	名取 夏司殿
一金貳圓	中島 泰藏殿	一金參圓	岡田 萬雄殿	一金貳圓	小林善四郎殿
一金貳圓	井上 辰馬殿	一金參圓	篠原 克慎殿	一金貳圓	八杉 貞利殿
一金壹圓	津山 正之殿	一金參圓	大西 通幸殿	一金壹圓	岩下 三郎殿
一金壹圓	三田村太一郎殿	一金參圓	木橋力之助殿	一金壹圓	小山 藩殿
		一金參圓	和田 英松殿	一金貳圓	鶴田 雄夫殿
		一金參圓	大木榮治郎殿	一金貳圓	山添幸右衛門殿
		一金參圓	兒島 純雄殿	一金貳圓	近藤清次郎殿
		一金參圓	大竹祐三郎殿	一金貳圓	依田 眞吉殿
		一金參圓	荒井元四郎殿	一金貳圓	上村 眞澄殿
		一金參圓	增山 明殿	一金貳圓	木村賢三郎殿
		一金參圓	關 善寶殿	一金壹圓	高市 義寛殿
		一金參圓	尾形 寧治殿	一金壹圓	吉本曉三郎殿
		一金貳圓	秋山 重泰殿	一金貳圓	長田 宜殿

一金壹圓 竹田 敏泰殿
 一金參圓 矢口長右左門殿
 一金參圓 村川 堅固殿
 一金壹圓 山本秀左武郎殿
 合計金壹百八拾五圓七拾錢也
 累計金

七千四百四拾七圓七拾錢也
 右廣告仕候也

「吉田東伍」獎學資金實行委員
 因みに申す右廣告早速掲記仕るべきの處、此事務に當り候小生自身の思ひ違ひやら疎慢のため遷延今日に至り候段陳謝の辭を知らざる次第に有之候、偏に義金應募各位の寛恕を乞ひ奉り候
 榎山專太郎謹白

●平沼先生紀念品
 贈呈決算書

收入之部

一金六圓也 (古川 八郎君 朝田 幸造君 岩谷 美雄君)
 一金五圓宛 坂井 和吉君 村井 五郎君
 一金四圓宛 田島 一義君 小林 行昌君
 一金參圓宛 内田七郎治君 鹽谷 周策君 原科 茂作君 鈴木 敏一君 井上 豪介君 渡邊 淳君 田井 善道君 池田 可夫君
 一金貳圓宛 須永 甲作君 淺間 銀吉君 持丸 卓夫君 村田 三郎君 園田 貞次君 櫻井 長治君
 一金壹圓五拾錢也

一金壹圓宛 森脇 美樹君 三井 壯一君 林 正樹君
 土井彦太郎君 井東外次郎君 神保 道臣君
 田原 正太郎君 金森 近壽君 前川 慶作君
 中道 俊登君 浦上 師範殿 森下 義之君
 岡田 巖君 中村 誠信君 坪内甲子太郎君
 柳間 清見君 奥田 正君 小倉 増藏君
 菊地 藤造君 藤井 二郎君 加藤 善君
 木下 明治君 砥川 義雄君 小野 義順君
 關根隆一郎君 田中 那二君 笹田 登君
 岡崎 金造君 伊東虎一郎君 山崎八五郎君
 中村 徳治君 榎田 信雄君 中川 晃君
 田中 泰章君
 一金五拾錢宛 森川已代吉君 野村 金作君 三井 照治君
 合計金九拾六圓也

支出之部

一金三十圓也 油繪額面
 一金一圓八十三錢也 通信費(封書四十三通 ハガキ三十六枚)
 一金二十七錢也 卷紙代其他
 一金六十三圓九十錢也 書架三個代金
 合計金九拾六圓也
 差引殘金無し
 右の通りに候也 世話人

學生會合

●擬國會

(第三十一期早稻田議會)

吾早稻田大學政治科學生が實地演習として眞に國政を發理せんとするの意氣と抱負とを以てし瀾濁せる政界に一大アイロニーを與ふるの多年の經歷と名譽ある傳説とを有する早

稻田第三十一議會は二月十六日午前八時より大講堂を議場として開催せられたり先づ本年は大學部を以て與黨たる自由黨を、專門部を以て反對黨たる統一黨を、兩部選出議員を以て中立黨たる獨立黨を組織し閣員は首相(平沼學長)の外學生を以てし總べて自由黨に議席を有し最もデモクラティックに政黨内閣を作れり、而して政治科々長鹽澤博士を議長とし特に獨立黨議員には教授其他朝野の名士を列し以て一層の色彩を添へたり、今其顔觸れ及び其内容左の如し、

第三十一期早稻田議會

早稻田憲法第七條ニ依り二月十六日早稻田議會ヲ早稻田ニ召集ス
 大正八年一月五日

内閣總理大臣	平沼 淑郎
內務 大臣	須田 斌一
外務 大臣	久保田明光
大藏 大臣	小野 甫善
陸軍 大臣	後藤和三郎
海軍 大臣	石丸源次郎
司法 大臣	木村 盛
文部 大臣	菅原龜五郎
農商務大臣	齋藤 孝平
逓信 大臣	中田 謙吾
殖民 大臣	小室 誠
勞働 大臣	木田 久重
內務次官	加賀谷小太
外務次官	吉田治三郎
大藏次官	辻 周平
陸軍次官	古澤 茂
海軍次官	村上 吉藏

司法次官 山本 茂
 文部次官 宮川謙太郎
 農商務次官 牧 肇
 逓信次官 樋口彌太郎
 殖民次官 赤松 勇
 勞働次官 寺澤 辰二

鐵道院總裁 宮内薫太郎
 法制局長官 板谷 重吉

書記官長 杉山 嵩
 書記官 金森 義一 大塚 有章 新谷 牧夫 官谷壽三郎 後藤登美男 白石 源吉

衆議院議長 鹽澤 昌貞
 同 副議長 橋本 劉三

全院委員長 村上 志市
 豫算委員長 中川 寛治
 理事 佐藤 吳太 松井 恒雄 秋葉 陸衛 大沼 廣喜 川名 彦介 岸 一男 櫻井 紫郎

決算委員長 秋葉 陸衛
 請願委員長 大沼 廣喜
 理事 川名 彦介
 懲罰委員長 安藤 誠一
 理事 櫻井 紫郎

自由黨

院內總理 平田專太郎
 同 西 義顯
 院內總理 和田 種生

統一黨

同 速水 久彦
院內副總理 大立目直武
同 高橋圓三郎
同 島田 金藏
院內總理 花田 準一
同 阿部 茂夫
同 鶴見 善一
同 佐古 英悅
院內副總理 青刈 末喜
同 楠 五郎
同 齊藤三稚男

獨立黨

院內總理 高橋 清吾
同 重松愛三郎
同 土屋 重雄
同 岡田 信高
同 坂本 正雄
同 小村 正
同 木村 重義
院內副總理 大村富士雄
同 金成 麗
同 大瀧 猛夫

議場監督長

望月嘉三郎
議場監督 岸本 久
同 武田 直人
同 中山 繁
同 中村 治良
同 内田 新造
同 猪居 龜松
同 山本清次郎
同 山崎錄次郎

議場監督 小島九平治
同 新谷 知

議事日程

午前八時開會

一、施政方針ニ關スル說明 總理大臣 平沼 淑郎
一、外交方針ニ關スル說明 外務大臣 久保田明光
一、財政方針ニ關スル說明 大藏大臣 小野 甫善

一、財政ニ關スル質問 大室 莊一(統一黨)

一、外交ニ關スル質問 木村 重義(獨立黨)

一、同 齊藤三稚男(統一黨)

一、同 花田 準一(同上)

内閣不信任案提出

提出者 花田 準一(統一黨)

反對者 西 義顯(自由黨)

贊成者 蘆刈 末喜(統一黨)

反對者 大立目直武(自由黨)

贊成者 佐古 英悅(統一黨)

反對者 島田 金藏(自由黨)

反對者 高橋 清吾(獨立黨)

午後二時開會

一、思想問題ニ關スル質問 鬼頭 素雄(統一黨)

一、勞働問題ニ關スル質問 小西 義隆(同上)

一、農商務大臣ニ對スル質問 小林 正(獨立黨)

一、文部大臣ニ對スル質問 印出 忠藏(統一黨)

一、同 土屋 重雄(獨立黨)

一、殖民問題ニ關スル質問 立石 一男(統一黨)

一、内政ニ關スル質問 岡田 信高(獨立黨)

一、同 鶴見 善一(統一黨)

第一、全國青年團自治ニ關スル建議案 (獨立黨提出)

第二、國立勞働紹介所設置ニ關スル法律案 (政府提出)

第三、勞働組合ニ關スル法律案 (政府提出)

第四、全國禁酒法建議案 (統一黨提出)

第五、公設質屋及低額貸金機關設置ニ關スル法律案 (政府提出)

第六、土地増差稅ニ關スル法律案 (政府提出)

第七、幼年裁判所ニ關スル法律案 (政府提出)

第八、地方制度改正ニ關スル建議案 (統一黨)

右提出者 鶴見 善一(統一黨)

反對者 平田專太郎(自由黨)

贊成者 楠 五郎(統一黨)

反對者 速水 久彦(自由黨)

贊成者 高橋圓三郎(自由黨)

反對者 阿部 茂夫(統一黨)

贊成者 坂本 正雄(獨立黨)

答辯内相 須田 斌一

宣言

曠古世界的變局に當り我民族の隆興を圖らむとする者其大政補弼の職に在ると野に在るとを問はず専心世界思潮の歸趨を洞察し内民心を善導し人類永遠の福祉に貢獻し其特有の文化を以て世界文明に奉仕す可きは民族當然の義務なり。

今や現内閣は此の大局に當り自ら進んで國際聯盟を組織するの必要を確認し民族の獨立保証經濟的機會均等及海洋自由の三大原則に基きて世界平和は勿論殊に久しく歐米列國によりて侮視されたる東洋の調整の爲めに拮据奮勵せんとす乃ち先づ自ら軍備を整理し保護關稅を撤廢し更に聯盟列國に向ひて物資勞働資本の需給流通の圓滑を圖り永く昏迷裡に墮在せし世界人類を道義の光明に浴せしめんが爲めに聯盟諸邦と共に一切の文化的施設を提案せむと而して内に在りては此の世界改造に伴ひて生ずべき幾多の問題に對して文化助長の施政に出て參政の範圍を弘め大選舉區制に基ける普通選舉を施行し教育を振興し以て一般民衆を啓發し更に進んで民族の生活的基礎を安固ならしめむが爲めに産業の發達を初め食料問題物價調節に對して一切の有効なる施設を講ぜむとす洵に諒とすべきなり。

茲に於て乎我黨は銳意廓謬を冀發し以て民本の思潮に基ける其光輝ある現實的理想主義を充分に發揚せしめむとす。

立憲自由黨

宣言

歐洲の天地戰雲全く歛まり今や平和の曙光に接するも世界の形勢は刻々變移す。此の秋に當り國政變遷の任に在るもの徒らに文明の皮相を模し一日の小康を偷むを許さんや。

現内閣は成立以來何等論議畫の觀る可きなく
稅制の改革を企圖しと雖も財源の取捨賦歛輕重其
宜を得ず對外政策復機宜を案る。

國際聯盟の提唱は世界の恒久的平和の基礎を確
立し人類幸福の上に必要緊密なりと雖も現内閣は
徒らに理想に趨き實情を無視し列國の猜疑を招き
以て帝國の前途を謬らんとす。

此時に際し我黨は字内の大勢に鑑み内は租稅貢
擔の均衡を圖り階級的軋轢を調和して將來の社會
的禍根を絶ち更に民心の歸趨を考量して選舉權を
擴張し立憲政治の基礎を確立せしが爲め地方自治
制の一大革新を斷行せんとす。

若し夫れ外交に據りては國是に則り民意を基礎
とし東洋の安危世界の平和に對し俱に遠算なから
ん事を期す。

茲に第三十一期早稻田議會に蒞むに際し我黨の
大綱を宣言す。

宣言

立憲統一黨

第三十一期早稻田議會開會に當り我黨の態度を
天下に宣明す。

夫れ政治の要道は國民生活の進歩を計るに在り
今や世界大戰漸く終熄し萬國講和會議將に開かれ
んとす而して急激なる世界思潮の變化と社會革命
とは愈々人類生活の動搖を來せり誠に世界改造の
秋なり。

之の秋に當り我黨は國家大本と世界思潮とを洞
察して我國民の歸趨を誤らざらしめんとす以て激
する事然り。

立憲獨立黨

議場の光景 (速記録より抄)

●議長 ●茲に第三十一期早稻田議會を開會いた
しますと先づ開會を宣するや大臣席に平沼首相を
導く、平沼首相登壇第三十一期早稻田議會開會の勢

頭に於て、拙者が施政方針に關する意見を陳述する
の光榮を有したのであります。其詳細なる點に就て
は各大臣が説明するのであつて、拙者は大體に亘つ
て説明を試み、以て諸君の協賛を仰ぎたいと望むの
であります。

諸君、今や世界の大戦は終局を告げ、ベルサイユに
於ては講和會議の開會中でありまして、世界に取つ
ては最も注意すべき秋であります。實に世界は改造
の時代に遭遇してゐるのであります。從來の舊習舊
弊に囚はれて政局に處すべきは愚の極と言はれば
なりません。況んや文明開化の國ならんとすれば宜
しく世界の進運に鑑みて、之れに對應するの方策を
確立しなければなりません。而して世界趨勢は非常
な勢を以てデモクラシーの力を延べんとして居り
ます。今次の大戦に於てデモクラシーはオートクラ
シーに對して戦ひを宣し而してオートクラシーは
敗れてデモクラシーの思想が世界に瀾漫するに到
つたのであります。然れば列國の間に伍して吾が國
の文運發達を計らんとすれば此の世界の趨勢たる
デモクラシーに對して方策を誤らぬことが最も肝
要であります。

デモクラシーは一面に於て國內の政治に關係を
有すると共に、他面に於ては各國々際間の關係に適
要すべきものであります。從來世界各國間の關係を
見るに實に歎すべき人種的差別が存在して居るの
であります。斯の如き境遇から脱却して今
日は五大強國の一として數へられるのであります。
デモクラシーの思想は、之れを國內に於て提唱する
のみならず、國際間に於ても之れを宣傳せなければ
なりません。斯の如く始めて世界の人類は平等
の待遇を受け平和の間に悠々として相交ること
出来るのであります。而してこのデモクラシーの思
想を實行せんとすれば宜しく國際聯盟の主義を實
施するより外はありません。而してこの國際聯盟を
實施せんとすれば是非共三つの要件を具備せなけ

ればなりません。此の三つの要件とは何であるかと
云ふに宣言書に掲げてある通り民族の獨立保證、經
濟的機會均等及び海洋の自由であります。之れは拙
者並びに拙者の組織して居る政府の三大綱要であ
ります。而して此の三要件が具備される時、國際聯
盟は徹底して、世界の人類は平和及び文明の恩澤に
浴することが出来ると思ふのであります。

次には國內に於ける改造問題であります。拙者
並びに拙者の政府に於ては、第一に普通選舉を標榜
するのであります。或る一部の階級にのみ選舉權を
所有せしむると云ふことは明かにデモクラシーの
思想に反するものであります。『もの平を得ざれば
即ち鳴る』と云ふ言葉の有る如く一方に篤くして
他方に薄ければ、薄くなるものは必ずや不平を云ふ
に相異ない、而して其の間の差が餘りに甚だしい時
には恐るべき革命をさへ招來するに到るのであり
ます。こんな理由で愈々普通選舉を實行することに
したのであります。然して今日問題となつてゐるこ
とは大選舉區にするか又は小選舉區にするか、と云
ふことであります。其の詳細は内務大臣から説明
することと思ひますが、拙者は日本の現狀からし
て大選舉區制にするが穩當であると言ふすることに
止めます。

而してこゝに注意せなければならぬことは教育
であります。若し教育を普及せしめて普通選舉を數
くと云ふことになれば其の結果は恐るべきものが
あるかも知れませぬ。是に於て拙者は特に教育のこ
とに就て注意を拂つて居る次第であります。即ち國
民全體の教育を改善することが急務中の急務であ
ります。

尙ほ國民の生活に關して、食料問題、物價調節問
題等重大なる問題がありますが、それは各々分擔の
大臣が詳細に説明すること、信じますからして拙
者は以上の如く單に拙者の代表する政府の大體の
方針に就て説明し諸君の御協賛を仰ぎたいと思ふ

のであります。』と施政方針の大略を述べ與黨より
起る崩るゝばかりの拍手の中に降壇す。

「次で久保田外相悠然として登壇左の外方方針に
關する説明をなす。光輝ある世界の一大轉機に際し
第廿一期議會に臨みて我政府の外方方針に就き一
言することを得るは光榮なり、已に休戰條約の調印
を了し今や列國ベルサイユに會して和を講ぜんと
しつゝあり、此際我政府は從來の秘密外交の弊を一
掃し而して我政府提案の國際聯盟案、並に對支對露
外交に就きて一言せんと欲す。

抑此の國際聯盟なるものは恒久的平和を確立す
るものなれば國家の位置と情勢とに鑑みて要求の
提出を試むるべきなり、斯くて我政府の舉ぐべき原
則は民族の獨立保障及其經濟的機會均等、並に海洋
自由の三者即ち第一民族の獨立保障に就ては
各民族に於て適當なる經濟力、精神的文化並に民族
意識の確立せる者にありては之に獨立の保障を與
へん所存なり、第二民族の經濟的機會均等に關して
は先づ物質の流通需給の公平、且つ自由の爲に保護
關稅を撤廢し之に伴ふ内國產業問題に對して助長
的施設をなし更に各民族平等の要求よりして人種
的差別撤廢を主張せんとす進んで第三の海洋の自
由に至つては先づ領海外の世界、公路を開放し私
有財産捕獲の廢止を希望す然れども國際行動とし
ての例外は之を認め絶對的戰時禁制品の如きは存
置せんと欲す、而して次に以上の三大原則に伴ふ種
々の問題を説明申さん、先づ國際勞動法の要領即
主として移民の自由と労働市場との關係に於て勞
働時間の制限と最低賃金の制定を設け、一般保護に
就て適當の法規を樹立し殊に幼年及婦人労働者保
護は最も重大なる項目たらしめんと思ふなり而し
て國際勞動問題として重要な階級闘爭防止策も
其法規の一として制定せん希望なり、次に軍備問題
即我國陸軍に就ては現狀維持に止むべし、その目的
は一國の秩序維持にしてその標準も亦其外に出て

ざる様にし、武力制裁の時の國際陸軍の一部として各國内に自國陸軍を留めしめんとす我國海軍に就ては艦船の補充をなし、その目的を海上の自由及交通保障に置き更に經濟制裁及武力制裁の際の用に供し而して國際艦隊の編成を必要なりと信するなり兵員に就ては徵兵制度を當分存置せんも漸次改正するの意思は有するなり而してこの軍備に關しては聯盟成立の曉に於いて適當なる制限を各國共に致さざる可からざること、信す(此時既に簡單々々の聲起る)次に聯盟成立の階段とし先づ原則に大強國共に平等の權利を享受すべきなれども之が適當の過程として日米英佛伊の五大國を以て先づ組織し嚴重なる資格審査の後他國の加盟を許可したし、更に機關には立法部として國際聯盟會議を設け毎年一回之を召集し常設として國際聯盟行政局及書記局を設け前者の中に仲裁裁判所を設けんと欲す聯盟の行政司法上の重大事件たる加盟國間或は加盟國との係争事件に關しては先づ手續として訴願を受け行政局に於いて審査すべきものなれども訴願を俟たずして之を爲し得べし、かくて行政局は仲裁裁判所をして係争國に五ヶ月の猶豫期間を命じその係争問題とその不穩なる輿論の調和に努めんと不幸調和も爲し能はず審査上不正義を認めたる場合には臨時聯盟會議を召集しその不正義國に對しては斷交の宣告を與へ且つ該國をして公權被剥奪國となすべし、而して斯る國に對する制裁法として經濟制裁と武力制裁とを併用せんと欲す、前者は經濟的封鎖を行ふものにして、後者は經濟的自給自足の可能な國に對する制裁として認むるものなり、茲に於いて國際陸軍の必要あるなり、國際聯盟提案の要旨は概略以上の如し(和製カイルソンなる哉と叫ぶ者あり)

自決權に訴へ、第二として國際管理として可能なものには可及的自治制を敷き不可能なる場合には適當の國に委託統治を爲さしむる方策なり、然れども不可能性の強弱に従ひ、その統治の權限にも異なるべく漸次に自治制に向はしむるやう努力すべきものとす、而して自治制及委託統治を爲せるものよりは適當の方法を以て聯盟本部に行政報告をなさしむべしと思ふなり、我國の立場として我政府は太平洋占領地に關して赤道以北説を採る所存なり、然れど聯合國側の被占領地に就ては以上の言は効力なきものとなさんと欲す、即トレンチノ及アルサス、ローレンの如きは非侵略地と見做さん、その自決權に就ては或程度に於いて容認すべき考なり。次に露國問題に關して一言すべし、聯合與國の協力以て干戈を採れる當初に於ける露國の功績は十分に認むべきものなれども不幸にして國內亂れて現今悲運にあるは同情に値すべく由つて我政府は露國が外部の指圖に依らずして自國の事件を解決すべき權利を有する事を承認せんと欲す、昨年シベリアに出兵したる主たる目的は彼の勇敢なるチエツクスロヴァツクの民族運動のありし際獨逸勢力が之を拒みたる事に對して爲したる行動なり、今や殆んどその目的を達したればたゞ地方秩序維持の爲に若干の兵力を東部シベリアに駐在せしめ置くのみ第なり。

次にシベリア鐵道問題に就いては我政府は露國主權を尊重し究極的還附の意見を有するも現今に在りては必要上露國委員を主班とする日英米佛伊支の七國委員より成る鐵道管理委員會に委任せんと欲す。

更に隣邦支那に於ける外交方針として、實にその主要精神を南北の根本的調和促進に置き、それが爲に暫く借款其他一切の財政上の援助を控へん考へるも、民間の援助に對しては決して反對せざるのみか大いに賛成する次第なり、而して支那の國際上に於ける政治的及權力の獨立に就いては充分その保障に當るべく彼の膠州灣の如きは當然還附の意思を有するものなり、斯くて我政府は隣邦と心を合せて以て東洋の調整の爲に努力せんと欲す。

上述の如く我政府は實にデモクラシーの根本精神に従ひ人類の公平及平等を目的として、恆久平和確立の爲に出來得る限り盡力せんとするものなれば、諸君に於いてもこの趣旨を諒し我國の世界的地位確立に努力あらんことを切望するものなり」と現時の實狀に鑑み縷々外交方針を述べて降壇。(拍手起る)

次に小野藏相登壇、落付きの態度と雄辯とを以てして財政方針に關する説明を左の如く述べ。

第廿一期早稻田議會開催に當り、政府の財政方針を開陳するを得るは光榮とする所なり大正八年度歳入歳出總豫算額は左の如し。

歳入	經常部	一、一〇五、九三二、一一五	臨時部	一八三、四二二、二一〇	計	一、二八九、三五四、三二五
歳出	經常部	五〇九、六八〇、二二六	臨時部	七八〇、八一、三九一	計	一、二九〇、四九一、六一七
差引不足額(時借入金)		一、一三七、二九二				

而して戦後に於ける今日自ら財政の理想に悉く應ずることは不可能にして各省諸多の新施設費を要求せり先づ歳出に關して説明すべし、而して茲には明細に提示することを略し單に其中の新要求額に就いてのみ申す可し。

内務省	ナシ
外務省	二、九六六、九二七
陸軍省	ナシ
海軍省	ナシ
逓信省	一、二〇〇、〇〇〇、〇〇〇餘
農商務省	一、二〇〇、〇〇〇、〇〇〇餘
文部省	一八、三〇〇、〇〇〇

司法省 三〇、〇〇〇
労働省 三二、二四一、四四〇
殖民省 ナシ
大藏省 二四五、〇〇〇、〇〇〇
右各省新要額 四二九、〇六八、四六七
右の中大藏省に屬する出費内譯を示さん、第一東京造幣支局設置の費用を含むものにして、近來補助貨幣不足の聲高きと小額紙幣に對する世評宜敷からざるが爲め此の必要を認めたるものとす第二、に砂糖專賣局設置の費用なり是れ社會政策的國庫増收を計る上に於いて必要を認めしに由る第三、保護關稅撤廢に由る歳入の減少額は國際聯盟加入に伴ふ結果にして其新要額に含まるゝは必然なり。

次に歳入方面の説明を爲すべし、財源を何處に求む可きは最も考慮したる問題なり當局の採れる方針は前年度の剩餘金は是れを臨時事件費追加豫算の財源に充當したるを以て、大體次の三方針に據つて財源とせり。

一、自然増收の振向	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇
二、公債募集	一五、一五〇、〇〇〇
三、増税による收入	一三〇、五〇〇、〇〇〇
其他	
臨時歳入及臨時事件の收入	一八三、四二二、〇〇〇
計	四二九、〇七〇、〇〇〇

而して第三の増税による收入は、是れを經常支出に當て他は是れを臨時歳出の費用に當てんとする方針なり特に説明を要するは増税の内容なり即次の如し。

一、所得税増率	
二、相續稅増率(主として動産課稅)	
三、酒造稅引上	
四、戰時利得稅繼續	
以下新稅として	
五、庭園稅(坪數と人口密度により稅率を異にする)	

六、土地増徴税(調査局に於いて調査し五年に一回課税す)

七、興行物入場券に對する課税(等級により税率を異にする)

八、電話度數並個數制(等級により異なる)

九、居留地の家屋税

撤廃すべきものとしては

航路補助費
右各増税諸項目に關する金額等詳細なる點は配布せる印刷物の通りなり不明の點有らば猶説明すべし。

次に述ぶべきは公債政策の問題なり、大正七年十二月末に於ける通貨は内地朝鮮臺灣を通じて十五億四千二百九十五萬九千圓なり、而して通貨膨張の結果一般物價の騰貴を招き地方農村に浮華の風を生ぜしめ遊金多きを見る例へば、五十萬圓の資本金なる小貯蓄銀行にして百五十萬圓の預金ありて經濟界は爲に不自然に陥りつゝあるは遺憾とする所なり、當局は通貨總額の約二割即約三億圓の短期公債を發行し運河費等に充當し、其他特別會計等にも之を用ひて財界の平調を得んとす、而して此の三億圓は政府に於いて經常費其他歳出上の計畫には多く關係せず故に時機に従ふて適當の額を發行して以て三億圓迄之を試み、後財界金融逼迫の程度に應じて隨時之を返還し以て所期の目的に達せんとする方針なり。

次に保護關稅撤廢及産業獎勵金の問題を述べんに、保護關稅撤廢の理由は總理大臣の前述せる如く國際聯盟に加入せるが爲及保護關係必しも保護の目的に適せざるものあるを認むるが故なり、收入關稅を存置せる理由は各國に卒先して全部撤廢する税のなきと、歳入を急に減じ難き事情あるとに由る、生産獎勵金新設の理由は保護關稅の撤廢に伴ひ、且つは戰後國際經濟戰に備へんが爲なり、詳細は農商務大臣の答辭あるべし。

要之政府の財政計畫は戰後經營に關する新施設並に國際聯盟加入による財政の改變に由りて歳入上に大なる影響を生じたるを以て、之が取捨は時代の趨勢に鑑みて第一に社會政策的見地より増税し、第二に通貨收縮策として公債の募集を爲せる者なり、且つ増税を斷行せるは將來各國の民族的向上に伴ふ國力の膨張に策應すべき財源を得ん爲め、而して起り來るべき労働問題の將來に備へんが爲めなり、畢竟國庫の支出益々膨張するの將來を慮り、遠大の抱負に基きて此機に際して、斯の如く方針を決定し而も經常歳入の増加を計り、財政の基礎を強固ならしめたるなり。

終りに本大臣は各員諸氏が重大時局に鑑み、政府の施設を是認せられ且つ早稻田王國の爲に協賛あらんことを切望す。』と結びて降壇するや、通知順によりて實問に入る。

大室莊一君(統一黨)登壇し財政に關する實問をなす、歐洲大戰は世界の有らゆる方面に一大變事を來せり、開き財政上及經濟上に齎らせる變動復た甚大なり、此の秋に當り國家財政計畫亦亦なるべからずと前提し。

第一、我國外債の内にて大正十二年度より十五年度に亘りて償還すべき額は約五億萬圓なり。

而も大正八年度豫算は此の五億の外債を全部償還するの覺悟にて編成せられたるや、或は又借り換へ得るものとして編成せられたるや、更に又此の豫算を以て戰後財政の對策策として遺憾なきものとするや如何と質すや

大藏次官登壇之れに答ふるに數字上より簡答を與ふ、次で歳相壇上に現はれ答辭す。

第二、歳入豫算の見積り過大ならずや樂觀に過ぎたる傾向なきや、租税に於て然り、官業收入に於て然り、殊に自然増收の見積り甚だ過大に失する嫌ひなきや。

第三、通貨收縮の名の下に公債を募集するてふ見

解は今假りに是認せんとするも、政府今次の募集計畫既に三億二千萬圓、是れに加ふるに海軍補充費の追加豫算又其財源を公債に求めんか、本年募集額は巨額に上らん、經濟界現時の趨勢の下に果して巨額の募集可能なるや否や。

第四、今次提出の増税案は社會政策的見地よりなすと云ふも其間矛盾甚だしく、要するに財政の基礎を鞏固ならしむてふ言辭の下に増收を圖るを主眼とするにあらざるや、増收の爲めの増收には非ざる乎。

第五、糖業會社買收費幾何なりや、其の砂糖事實となして得る純收入の豫想幾何なりや、更に又糖價をして現在の高値以上に引き上ぐる事なきや如何。

以上五ヶ條の實問をなせり。

次に木村重義君(獨立黨)登壇し國際聯盟に關し左の實問をなす。

第一、外相に對する實問
外相は聯合艦隊を組織し以て海軍の警備に備ふるとの事なるが此の警備の爲めに各國が提出する艦隊は國により其數を異にせざるべからず、然らば何を標準として其の數を定めらるや、若し聯盟國を一等國二等國と分ちて其數を限定さるゝならば右一等國二等國は何を標準として區別さるゝや。

第二、海相に對する實問
聯合艦隊制度は英獨の如き領土散在せる國にとりては甚だ有利なるも我國の如き固定せる領土を有する國にとりては費用のみ多く有害無益の制度に非ずや。次に若し聯合艦隊を組織するとせば海軍省の經常費に於て以前より幾何の増加なりや。

第三、陸相に對する實問
聯盟成立後に於て各國陸軍の數を一定するならば實の如何により強弱は定まるの理なり、陸相

は現下の二年兵役に對し更に年限延長の確心なりや。

第四、文相に對する實問
國際聯盟が「デモクラシー」の發現なる事は首相の演説により明かりなり、然るに此の「デモクラシー」の爲めに今や我思想界は混亂たる様なり。これ「デモクラシー」に對する一定の正解なきが爲めなり、文相は之を如何に解義せらるゝや。

第五、農相に對する實問
國際聯盟に伴ふ關稅撤廢に對し特種産業に保護金を與へらるゝ方針なるが其産業の種類を舉示されし。

石丸海相、菅原文相等各登壇答ふる所あり。

次で齋藤三雄男君(統一黨)花田準一君(統一黨)登壇外相を糾彈する事痛烈を極む、續いて獨立黨中の支那通を以て知られたる邱仰飛君登壇し、對支外交に對して肉迫頗る急なる所ありしと雖、外相もさる者之れに應酬すること簡明、議場頗る緊張の中に寺西進行係より動議ありて實問を打ち切り、直に内閣不信任案に移る。

金森書記官左の決議案を朗讀す、
内閣不信任決議案理由書、
現内閣は成立以來其抱負經綸の大なるを誇ると雖も其の實際的施政に見る可きもの更になし、内政に於ては戰後經營の準備なく外政は其の機宜を過る、殊に國際聯盟組織に對する態度に至りては世界の實狀を見るの明なく徒に理想を提げて快哉を叫ぶ爲めに帝國の利權と威信を失墜すること甚大なり。

本院は國家の前途を考慮するの餘、現内閣諸公の處決を促す。

大正八年二月十六日

提出者 花田準一 外三十五名

朗讀し卒るや統一黨席より急聲の如き拍手起れ

ども内閣諸大臣本案の運命を見越して更に動搖の色なし。
提出者花田準一君議長に臨み登壇

「本員は日支外交の失敗、シベリヤ鐵道に關する失敗、對露外交問題、殖民地問題、國際聯盟に對する政府の態度の五大綱目を掲げて先づ内閣諸公の自決を促すのである」

よて各項に渡りて幾々數千言を以て糾弾し統一黨席よりの歡呼に送られて降壇すれば、自由黨總理阿義顯君拍手に迎へられて登壇、明快なる辯舌を以て簡單に反對意見を述べて降壇す、時に正午を過ぐる半時なりしを以て、議長特に説明者は可成簡單に意見を述べ一般議員諸君は靜肅を旨とし、議事の進行を妨害せざらん事を注意す、而して議長は通告順により統一黨總理佐古英悦君を登壇

佐古英悦君登壇、國際聯盟問題を提げて
吾人は勿論國際聯盟に對する三大原則即ち民族の獨立保證、經濟機會均等、海洋の自由の主張否實現に對する希望としては敢て人後に落ちざる者なりと雖如何せん其緒結せられんとする内容に於て大なる矛盾を認むる以上は國家百年の大策より計究して茲に吾人は國民と共に斷乎として帝國將來の爲め斯る不徹底窮る聯盟には反對せざるを得ざるなり。
と反對し更に論鋒を轉じて、内閣不信任案賛成理由に移る。

今や全く國民の信望を失墜せる現内閣は速かに責を閣下に伏奏し直に其の骸骨を乞ふは採るべき當然の處置なりとす。茲に本員は滿場の諸君に計り以て全院一致本案を通過せしめむ事を切望するものなり。

とて降壇するや自由黨席より「馬鹿を云ふな」と聯呼する者あり又統一黨席より盛に應酬して私語類々議論暫時無秩序の狀態に陥る、議長構はす統一黨副總理藤本喜吉に登壇を促せば喧騒裡に藤本

喜君登壇

自由黨席に向つて終始揶揄的態度を持して簡單なる賛成意見を述べ降壇す。
次に自由黨より副總理島田金藏君登壇し、之れに應

我が早稲田内閣は天下無比の形式及び内容を有せり、而して早稲田王國の政治は理想的なる政黨政治なる事を本員は世界に誇るものなり、今期の自由黨内閣に於て國際聯盟加入を前提として總ての社會制度を根本より改革し舊來の弊習を一掃し國民福利を企圖せるが如きは皆政黨内閣の賜なり。然るに統一黨は頑迷にも云々。
と力説し自由黨席より起る喝采を浴びつゝ、降壇すれば議長は自由黨副總理高橋圓三郎君(大立目直武君代理)を登壇

高橋圓三郎君議事録を右手にして肩を聳かしつゝ、登壇
本員は統一黨諸君の賛成意見なるものは徹頭徹尾根柢のないことを恐むるものであると喝破し更に鋭鋒を統一黨に向け無能なる統一黨諸君が賢明なる自由黨内閣諸公を弾劾せんとするは抑も誤りなり

と結んで降壇するや統一黨席より「議長失言なり」と連呼して息まず、又「無能なりとは何ぞや」と馬を進めて突入すること急なり、而も自由黨より盛に「失言にあらず」を連呼し議場喧騒復喧騒一時は靜止の見込なき有様なりしが議長の注意によりて漸く靜肅に復す、議長聲朗かに高橋君と呼ぶや議案の運命を一手に握れる獨立黨總理高橋清吾君肥滿せる體軀を悠々と壇上に運ぶ、滿場は崩れんばかりの拍手を以て之れを迎ふ。

内閣不信任案は國際聯盟を中心として居るやうである元來國際聯盟は如何なる階級に屬する人々によつて反對の聲を擧げられて居るか云ふと保守派が官僚が軍閥が財閥に屬する人々に

よつてあると前提し各國の例を引いて幾々盡くる所なし
氏は更に力説し
國際聯盟を以て民衆解放の一大使命を有するものと信ず、夫れ故に苟もこの國際聯盟に反對するものは人道の進行を阻害するものと認めざるを得ない、

尙又試みに見よと言を續けて列國の現狀を摘發し吾黨は國際聯盟に對して滿腔の賛成を表せんとするものであると結びて降壇すれば、獨立自由兩黨より急聲の如き拍手起る。

此の時討論終結の動機あり直ちに採決に入り、議長起立によりて之れを問ふ。
起立せる者
自由黨員及獨立黨員 百二十名
起立せざる者
統一黨員 八十名

斯くして熱狂裏の中に内閣不信任案も統一黨の力戦ありしに拘らず滿場の拍手と共に一蹴し去られたるなり、時正に一時三十五分議長休養を宣す。午後二時再開 橋本副議長議長席に就く鬼頭素雄君(統一)の思想問題に關する質問あり續いて労働問題を提げて小西義隆君(統一)登壇、(一)失業問題(二)資本主對労働者問題(三)教育問題(四)婦女及幼年者に關する問題(五)娯樂及衛生(六)養老年金及各種賞與金の制度(七)國際労働問題(八)労働組合の八項に關して質問をなす、本田労働大臣登壇一々具體的に説明を下す獨立黨より小村總理統一黨より印出忠藏君及び土屋重雄君(獨立)立石一男君(統一)岡田信高君(獨立)等各々米價調節問題帝國青年團問題海外教育高等教育に關する諸件及植民内政に關する諸問題を以て數次の押問答の後寺西進行係より討論終結日程變更の動議ありて第一、より第七まで委員付託となし直ちに第八、地方制度改正に關する建議案に移る。

地方制度改正に關する建議案
政府は曩きに衆議院議員選舉法を改正し普通選舉を施行したるに拘らず地方制度に對して何等觀る所なし、故に政府は字内の大勢と輿論の趨向に鑑み地方自治制度の根本的改革を行ひ以て立憲政治の基礎を確立すべし。
右建議す
大正八年二月十六日
右提出者 鶴見善一 楠 五郎 阿部茂夫 右賛成者 藤本喜吉 外二十九名
官谷書記官右建議案を朗讀するや、提出者鶴見善一君(統一黨)壇上に現はれ地方自治制改革に關する建議案提出の理由を説明せり。
本員は地方自治制度改正建議案提出の理由を説明せんとす。(拍手)抑々我が統一黨が本案を提出するに至りしは現内閣が普通選舉を行ひ、大いに民本主義を發揮し乍ら地方自治制に對しては何等顧る所なければなり。自治制は憲法政治の一大基礎をなすものなるが故に、衆議院議員選舉法改革に先ちて地方自治制に一大改革を施すべきなり。本員は次ぎに本案の内容を説明せんとす。本案の最も重要な事項は(一)一般の選舉權及被選舉權を擴張すると(二)府縣に完全なる自治制を布き府縣知事を公選にすると(三)自治體に警察權を附すると(四)郡制を廢止すると、以上の四項なり。
第一項は從來の納稅額に依る制度を廢し、所謂普通選舉を行はんと欲するなり。即ち府縣制第六條に於ける、「一年以來直接國稅三圓以上を納むる者」或は市制第九條及び町村制第七條に於ける、「其の市町村内に於て地租を納め、若しくは直接國稅額貳圓以上を納むる者云々」と云ふが如き制限を全然撤廢し「二年以來市町村の住民となりたる者にして二十一

歳以上の男子は悉く府縣町村會議員の選舉權を有するものとす。而して被選舉權につきは府縣制の「一年以來直接國稅年額拾圓以上を納むる者」及び市町村制の「地租を納め若しくは直接國稅貳圓以上を納むる者」等の規定を撤廢し、「二十五歳以上の男子にして、一年以來一市町村内に在住する者は何人にも府縣市町村會議員に選舉せられ得ること」とす。

元來議員の選舉權及び被選舉權を定むるに當りて、只だ單に其の納稅の有無多少に依つて資格を定むると云ふが如きは誠に不合理なる事にして、今更本員が喋々する迄もなく、殊に市町村會議員の選舉に階級選舉の制度を用ひ、加之最も多額の税を納むる者に對しては更に一種特別なる權利を附與し居るが如きは時勢に適應せざる最も劣惡なる制度なるが故に全然それを廢止する事と決せしなり。斯くしてこれ迄衆議院議員の選舉と府縣市町村會議員の選舉との間に甚だしき懸隔ありて不公平なりし點の均衡を保つことに成り普通選舉の制度をして眞に徹底的ならしむるを得るなり。

第二は府縣に完全なる自治制を布き、知事を公選にするとなり。諸君御承知の如く、我が現在の府縣なるものは市町村の如き完全なる自治は許されず、而して府縣知事以下多數の官吏に依りて、種々なる事は處理せられつゝあるなり。故に府縣知事は大なる權力を持ちて、此の知事の轉任等の事なき以上は其府縣民の如何に此が爲努力すと雖も、何事も爲し能はざる状態なり。現在の制度にしては常に優れたる知事のみを迎ふる事は不可能なるものにして、往々其の府縣の事情に通ぜざる非常識なる知事を迎へ、民意を無視し、勝手氣儘なる施政經營をなし、府縣政を潰し府縣民を苦ましむる事あり、而かも此一官吏に對して縣民は如何なるをも爲し得ざるなり、又府縣會にて種々なる議決をなせしも、從來の制度にては知事は自己の意見に依りて又は、内務大臣の指

揮に依りて其の議決や選舉を取り消すことを得るなり此結果府縣會に於て議決せし收支の豫算に付き所謂原案執行の手段が行はれ、知事一個人の意見のみ現はれて提案を固執強行するものと往々あるなり斯の如きは現代の民本主義の思想と相容れざる甚だ敷きものにして、自覺したる國民の到底忍ぶ能はざる所なり、故に府縣に對しても今回の市町村の如き完全なる自治制を布き大いに民意を尊重する所の制度たらしめんとするなり、而して府縣知事は府縣民有權者の一般投票に依りて選舉することとなし其の被選舉資格としては、其の府縣内に二年以上在住する三十歳以上の男子ならば何人にも可とするなり而して府縣知事の任期は四年とし、若し任期中不都合なる事有り又は無能にして何等爲す無きが如き場合は府縣會に於て此を彈劾し得ることと爲し、府縣政に所謂責任政治を行はんとするなり然らば府縣民は最も自己の信頼する人物を擧げて府縣政を託するを得るのみならず、府縣の事情に明にして相當抱負を有する人物を選出し得るなり、從つて府縣の治績擧り、府縣民の福利は益々増進せらるゝ事と信す。

第三は自治體に警察權を附與する事なり、此は府縣に完全なる自治制を布く當然の結果として起り來る問題にして、現在の府縣にある警察部を其の儘に繼承すれば可なり而して警察部長警視警部と云ふが如きは法令に依りて定められたる一定の資格を有する者より府縣參事會の承諾を得而して知事が之を任用するなり斯くする時は從來往々耳にしたる警官と人民との衝突或は無謀なる言論の抑壓、發賣禁止等の批難は殆ど其の跡を絶つに至るならんと信す。

第四は郡制の廢止なり今日の郡役所なるものは、夫れ自身に殆ど何等活動力を有せずと云ふべし、而して只だ府縣廳と町村役場との間にありて事務を執行するに過ぎず、其の執行が有効なれば可なりと郡

役所あるが故に町村事務は却つて滯滞を來す状態なり、交通機關未だ整はず通信機關尙發達せざる時代にありては、郡役所は府縣と町村役場との中間にありて事務執行を敏活ならしめしやもはかられず然れ共今日に於ては町村と府縣廳との距離は交通機關の發達に依りて昔の郡役所と町村の距離よりも短縮せられ殊に府縣に完全なる自治が行はれ、市町村制に一大改善が施さるゝあらんか、尙更郡制存置の必要を認めざるに至る故に本案に於ては郡制を全然廢止し經濟の縮小事務の敏活等を計り其の利する所を以て地方財政の充實を圖らんとするなり、此の外府縣會議員の増加府縣市參事會の權限擴張市町村長の一一般投票に依る選舉地方財政と中央との關係市町村と各種團體との連絡等に關する事も本案中に包含され居るなり、然し夫等は委員會に於て詳しく説明するとなし、只一言述ぶるを必要とするは本改革案を實際に施行する時期に付きとなり、多數諸君の中には或は本改革案を採用するに時期尙早なりと論する有るやも量り知り難しと雖も、凡そ一國の制度施設を論ぜんとするものは先づ其の國民の教育程度如何を考慮すべきなり、而して我が國今日の教育程度を見るに、其の成績は極めて良好にして壯丁の國民教育の終りし數は九十八%に達す歐米諸國に於ても斯の如く國民教育の發達せる國は獨逸以外に之れ無きなり故に教育程度に付きては何等時尙早を唱ふるの余地なし、恐くは自由黨内閣に於ても此の點を認めて、既に普通選舉制を採用されし事と信す既に國民にして衆議院議員選舉に普通選舉を行ひ得る能力ありすれば本案を採用施行するが如きは易々たる事にして毫も時期尙早きを唱ふる理由は存せざるなり、故に本員は念の爲に此一書を添へて以て諸君の御賛成を求めて此壇を下る次第なり、拍手再び起る。

次に賛成者楠五郎君(統一黨)反對者高橋圓三郎君(自由黨)賛成者阿部茂夫君(統一黨)反對者和田

種生君(自由黨)賛成者阪本正雄君(獨立黨)等の諸君交々熱辯を振ひ、之れに對して内務大臣の簡明なる答辯あり而して討論終結の動議ありて採決に入らんとするや、之に先ち内閣諸公形勢不利なるを見越せしや、既に閣下に骸骨を伏奏中の處時に御聽許ありて茲に内閣總辭職となり、全院一同早稻田王國の萬歳を三唱し併せて政治科の萬歳を唱へ、午後五時半閉會を告ぐ。

稿を終るに臨み書記官金森、新谷、官谷、大塚、後藤の諸君並に齋木君の開會前後に於て多大なる御盡力ありしことを附記して感謝す(杉山嘉輔)

●法科大會 二月八日午後一時より講堂に於いて法科大會を開く。平沼學長、鹽澤理事并に校友坂本三郎、渡邊代五郎諸氏の演説に次いで學生數番の演説あり。終つて午後六時より矢來俱樂部に於いて同窓の豫餞を兼ねたる懇親會を開き、教授寺尾元彦、遊佐慶夫、講師草野太郎諸氏校友西岡竹次郎氏等の出席あり。學生の出席數十名酒席上演説に早稻田式を發揮し、盛會裡に散會せり。

●商科學生の謝恩會 本年卒業すべき大學部商科三年生は二月廿二日午後四時上野精養軒に同科擔任の教授講師を招待して謝恩會を開く。三年生四百三十名の學生全部出席非常の盛會を極む。學生各自の隱藝に感興を惹きたる後午後六時食堂を開き師弟打寛ぎの歡談裡に晚餐を供にし、デザートコースに入るや溫情を籠めたる各教授講師饒別酌に次いで學生の五分演説氣韻萬丈の概を示し、盛會裡に九時散會せり。

●早稻田英語會 古いやうだが大正七年は學校と共に英語會にも過渡期であつた。春期の大會が秋になつて、九月やうく事務の引き

續ぎを了した。現幹事は、一回の月次會を開く事もなく十一月一日二日の大會に臨まねばならなかつた。それでも何うにか大仕掛けなセトリカルを荷うて、歴史を恥かしめる程の事もなく、寧ろ成功に近くそれを切りぬけたのは長い歴史の力と云うて然るべきだらうか。一月には我會では二回のアウチングを催した。一度は井ノ頭方面、一度は中山市川方面であつた。

▲二月例会 第一回の月次會は、二月の十五日に恩賜館の第二會議室に開かれたのであつた。開會に先立つ一時間、もう聴衆は詰めかけて居た。實業や青山學院あたりから見えた人も大分あつた。レノリウムを敷いて、レザーの椅子を持つた美しい會場は、スチームに心よく暖まつて居る。立錫の地無き迄に詰めた聴衆は、本當に紳士として恥ぢぬ静肅さを以て開會を待つて居る。プログラムは次のやうに發表された。

Opening Address. Mr. S. Yamada.
Our Duty. Mr. Kawai.
The Senuous Life. Mr. Takura.
One Thing or Two about Walt Whitman. Mr. R. Yamada.
Black Beauty's Early Home. Mr. T. Sahara.
The White Ship. Mr. R. Tsuchihashi.
Not Decided. Mr. S. Yamada.
Introduction to Prof. Kawajiri.
Prof. Takasugi.

My American Life. Prof. S. Kawajiri.
會員の演説暗誦がすんで、青山學院教授なる新歸朝の川尻正修先生は、高杉先生の御紹介の後で立たれた。流る、やうな英語と云はうか、何と云はうか、非常に雄辯なる外人の演説を聞いて居る程の感じを、一同に與へず

置かなかつた。自分達は全く先生に呈する讃辭を知らないものである。

『私がアメリカへ行つたのはもう六年前の事、あだちも歐洲の天地に未曾有な戦雲の漲る少し前の事であつたのです。私計りではなく、世界の何の國の人々も、アメリカは金錢萬能の國、個人主義の國、ambitious な國と思つて居りました。アメリカ人は全く愛國心などは持つて居ない國と思つて居りました。然し私は米國が獨逸に宣戰した當時の有様を見て、全く驚嘆せざるを得ませんでした。』

先生は當時の有様を詳しくお話し下された獨特の雄辯で手に取るやうにお話し下されたとして其様に突發的に、全く思ひもかけずに起つた米國の戰爭熱に就いて、先生は次のやうに説明されたのである。

『各國皆愛國心に満ちる國民を擁して居る。そして表面上アメリカは最も愛國心が不足のやうに見える。然しアメリカ人の愛國心は廣義のそれである。自由の愛が即ちそれであつて、世界的愛國心である。故にアメリカは西部戦線へ盛に兵を送つたのである。』

かうして先生は、最初の先生の米國觀の正反對であつた事を説かれて、約一時間の御講演を終へて壇を下られた。

非常に有意義なりし此會を終へて、會員は約五十名、會堂へ集つて茶話會を開いた。最後に校歌を合唱して、電燈のとぼる頃散會した。尙ほ英語演説に於ける世界的選手たる笠井重治氏来る。仍て三月八日午後一時より、政治科二十教室に我會は笠井氏を迎へて三月の月次會を開いた。詳細は四月號に報告しよう。

●支那協會例會 二月八日午後五時矢來俱樂部 (主橋生)

部に於て、己未歲第一回例會を開く。この日朝來の粉雪夜を籠めて止まず、定刻までに尺に達せんとす、會長青柳先生幹事長渡先生を始め眞摯なる校友學生の雪を衝いて會する者二十餘名、就中校友佐藤祐造氏は今宵東都を去つて南洋に歸任せらる、繁忙をも意とせられず、協會の爲めに臨席を得たのは深く一同の喜ぶ所なり。幹事の開會の辭に次いで佐藤氏は『南洋に於ける護謨事業談』として馬來半島に於ける邦人の護謨栽培經營に關して氏の實際的立場より詳細に互つて講演あり。吾人の海外發展に遠大の抱負と不撓の決心あらんことを訓へられた。次に校友上田輝治氏は『朝鮮金融事情』に付きて彼地の人情風俗より産業に及んで詳述された。終りに會長青柳先生は『萬國平和會議と極東均勢の改造論』と題して今や開催中なる列國平和會議より轉じて支那問題を中心としての列國外交就中日支間に横はる當面の緊急外交に付き縷々開陳せられた。一同片唾を吞むで敬聽すること一時間餘り、時局に關する新知識を與へられた。また

常夜は餘興として、錦心流琵琶中村双水氏の『本能寺』の彈奏があつた。斯くて閉會辭終れば、例によりて例の如く一同兩先生校友を中央に圓座を爲し、談論風發、時の過ぐるを知らない。すでに十一時惜くも解散す。戸外に出づれば白皚々たる雪は積ること尺餘、實に清淨にして意氣ある我等同志の心緒に共鳴するが如きを思はせた。この深雪に脛を沒して歸途に著く我等の影は寒きが中に雄々しかつた。(永瀧生記)

●心理學會例會 教授文學博士中島泰藏先生を會長とせる吾が心理學會は、一時休會の姿なりしが、本年は更に會員を増加し、是が發展を圖り、一月廿五日正午より其の例會を恩賜館内の新設心理學實驗室に於て開會せり。出席會員多數。定刻中島教授は『晩近の心理學進歩』と題して二時間餘の講話を試みられたり。内容は『心理學本部と特殊心理學並に心理學本部に於ける部分的研究とに就て』とて富有益にして且つ趣味ある講演なりき。講演後茶菓を呈し質問討論盛に起り、殊に心靈に對する奇談續出し、歡談裏に閉會を宣す。當日は折悪しく雨天なりしも如斯盛會なりしは將來本會の發展すべき佳瑞ならむか。

因に早稲田大學心理學實驗室の新設は現代我國の心理學會に於て重要な意義を有するものにして、東西の帝國大學以外官公私學を通じて該設備を有するものは唯獨り本大學あるのみにして、中島博士の該博なる研究と相俟ちて學界に多大の貢獻を寄與すべきは我等の信じて疑はざる處なり。(幹事)

●建築學科早苗會 二月一日(土)午後一時より建築學第五教室にて第七回建築學科早苗會第七回總會並に繪畫展覽會を開く。二年委員相會敏雄君の開會の辭あり。次いで久しく病氣引籠中なりし佐藤教授出席せられ、人は平常緊張せる心を持つて事に臨み、決して弛緩の感あるべからずとの意にて、病中讀書其他に依て感得されたる事柄につき頗る印象深き談話あり。少憩の後例により新津孝一君より大正七年度の會計其他諸般事項の報告あり。内藤教授より『米國に就いて學ぶべき點』と云へる題目にて、米國人の日常生活并に社會的訓練の行届きたる點を縷述せられ、人格の陶冶につき心掛くべき事柄につき感慨深き談話

あり。茶葉の饗應中古例の福引披露あり。折節御重態の知らせありし後藤先生の病魔を拂ふに寓して製圖大羽箒を出し。英國の代表的宮殿として九錢の巻紙を出し、パツキンガム宮殿に利かせる等の秀逸あり。歡談裡に散會したるは午後五時。當日卒業生として出席せられしは、緒方、中村孝愛、中村鎮の諸氏なり。(二年委員檢詰報)

●史學會例會、並に故吉田先生、故會員齋藤氏、追弔會 二月廿三日午後一時より恩賜館史學研究室に於て史學會例會並に故吉田先生故齋藤氏追弔會を開催し、教授校友學生約三十名出席す。先づ校友定金石右源二氏の『グレコ・ローマン人生活の宗教的要素』に就いての研究發表あり。史學に志すものは云ふに及ばず、社會學を専攻せんとする者に對しても益する處多大なりき。終て追弔會に移る。故吉田先生に就ては大森、津田の兩先生並に高橋氏故齋藤氏に就いては煙田、西村の兩先生並に藤木氏の得難き懷舊談あり。何れも故人を思はしめざるは無し、就中津田先生は故吉田先生の三大著に付、地名辭典は辭典に非ずして稀世の大論文なり、徳川政教考には先論に拘泥せざる獨歩の史眼あり。日韓古史斷は從來の日本にのみ踞踏せる國史をして廣く世界的に討究せざるべからざる事を示したりと推稱せられ、今後研究を進めんとする學生に對し有益なるヒントを與へられたり。斯くて茶菓を喫して歡談し薄暮散會せり。(史、二、K)

●政治科近畿人會 政治科近畿人會は二月七日午後五時より牛込矢來俱樂部に開き、代議士山口俊治、西川太治郎、片木政次郎、森秀次の諸氏及學生二十六名出席し、當面の諸問

題殊に普通選舉に就き演説及び意見の交換をなし同十時散會。

●岡山縣人會 本年度得業生の豫饒及新年會を兼ね二月十日午後四時より矢來俱樂部に於て春季大會開催。平沼會長、岸本教授、校友杉山義夫氏等を始め、校友學生約七十名出席殊に當日は同縣出身の犬養木堂先生、有森新吉、西村丹次郎、福井三郎並に白河次郎諸先輩の來臨を得。平沼會長の開會の辭並に得業生に對する懇切なる訓示あり。次で木堂先生起ちて縣人の長所短所を指摘し、其短を去りて須らく雄偉の氣象を養成し、自力を以て運命を開拓せざるべからざる所以に就いて力説せられ、會案に深き感動を與へらる所あり更に前記諸先輩の交々有益なる演説中、岡得業生總代の謝辭あり。終りて一同輕餐を喫しつ、懇談に刻を移し午後九時散會せり。

●三重縣人會 時は二月八日午後六時神樂坂倉田屋樓上に於て三重縣人豫饒會を開催す。此日朝來の飛雪夜に入りても止まず、満都を白皚々となしたる稀有の大雪、幹事連を杞憂せしめしも、愛郷心に燃ゆる諸兄は降り積む雪を蹴り粉雪を拂つて來會する者十九名、近來になき盛會なり。定刻、西田君の開會の辭についで卒業生總代丸岡君の答辭あり。續いて岡君の『増田會長辭任に付き上井先生を新會長に推薦するの件』並に『幹事變更の件』を提案し、直に議決す。かくてデザートコースに入ると、西川君立つて『本年度より夏季大會を我が縣下に開催を希望す』と云ふ冒頭の下に本會將來の發展に就き熱烈に説く所ありて多大の感動を與へたり。此の他各自の所見を披露して談論に花を咲かす間に飛觴漸く盛ん

なり。かくする中に上井先生御多忙にも拘らず本會の爲め特に御出席下され一場の挨拶を述べられて一層の活氣を呈す。興酣なるや各自獨特の隱藝を演じ。感興盡くるを知らず。戸外の降雪又止まず積る事既に八寸餘、各自入學以來味はざる歡樂を極め、校歌高唱の後十一時和氣露々の裡に散會せり。出席者氏名左の如し。(イロハ順)

上井 先生 乾 碩也 橋本正二郎
八太 次郎 星 信一 西田 哲二
西川 利雄 小津昌次郎 岡 榮三
太田 雄三 大西楠次郎 春日部誠明
村瀬 卓一 丸岡 重堯 前納 文夫
松岡 信雄 進喜久太郎 須藤 徳夫
鈴木 謙吉

尚ほ幹事は左の諸氏なりき。
乾、西田(一中)、鈴木(二中)、松岡(三中)、大西、西川(四中)、岡(商業)、太田(農學)、八太(他校)工業、農林の諸兄の御出席なかりしを遺憾とす。今後本會發展の爲め奮つて御出席あらん事を希望す。

●瀧原會 二月一日をトして卒業生五女月、松本兩氏の豫饒を兼ねその例會を角屋に開く會する者十九名。記念撮影の後、午後五時幹事の開會の辭に始まり、送別の辭答辭に次で無禮講となり、詩歌の吟詠は相互の親愛をまし、最後に母校宇都宮中學の校歌に昔の生活を偲び、現母校の校歌に將來の思ひをやり、和氣露々の裡に散會す。當日の出席者氏名。

五月女久吾 松本 茂夫 山形 喬
田代 普 池田 清作 櫻井 英二
上野 正三 小倉 薫 古口 金吾
市田 六郎 江連 廣吉 井面喜千松
藤沼 謙昌 手塚真一郎 平塚喜志壽郎
細川 進一 吉田 廣 金子 辨作
天谷 三郎

早稻田大學贊助會規則

第一章 總 則

第一條 本會ハ早稻田大學贊助會ト稱ス
第二條 本會ハ早稻田大學經常費ノ補充ヲ計ルヲ以テ目的トス
第三條 本會ヲ早稻田大學内ニ置キ各地ニ支部ヲ設ク

第二章 會 員

第四條 男女ヲ問ハズ本會ノ趣旨ヲ賛成シ一定ノ金額ヲ齎出スル者ヲ本會々員トス
第五條 本會ノ齎金ハ毎年金拾貳圓ヅ、十ヶ年間拂込ヲ以テ一口ト定ム
第六條 會員ハ一人ニテ齎金幾口ニテモ引受クルコトヲ得

第三章 委員及幹事

第七條 本會ノ會務ヲ統理スルガ爲メ委員長一名ヲ置キ早稻田大學理事ヲ以テ之ニ充ツ
第八條 本會ノ事業ヲ補翼スルガ爲メ本部及各支部ニ委員若干名ヲ置ク
第九條 委員ハ早稻田大學總長及學長之ヲ囑託シ其任期ヲ三ヶ年トス
第十條 本會ハ齎金募集事務に當ラシムルガ爲メ本部及各支部ニ幹事若干名ヲ置ク

第四章 會 計

第十一條 本會ノ資金ハ早稻田大學基金管理委員之ヲ管理ス
第十二條 本會ノ會計ハ早稻田大學會計監督之ヲ檢査ス
第十三條 本會ノ會計ハ早稻田大學々報ニ依

リ之ヲ報告ヘ

釀金ノ御拂込ニ就テ

拂込ノ時期 毎年一回(御指定ノ月)又ハ二回
例ヘバ一月、七月又ハ六月、十二月
若クハ年十二回即チ毎月ニ
分割スルモ差支無之御指定ニ從
フモノトス
拂込ノ方法 本會ノ原則トシテハ集金郵便ノ
方法ニ據ルモ御指定アラバ振替
貯金又ハ其他ノ方法ニテモ差支
無之モノトス

重ねて校友諸君に訴ふ

謹啓春暖の候益々御清穆之段
奉慶賀候陳ば曩に得貴意候通
り我早稻田大學が時勢の進運
に順應し更に其設備を改善し
廣く天下の碩學を聘用して益
々國家教育上に貢獻せんが爲
め其根本的要素として經濟上
の基礎の確立を圖り賛助會を
設けて普く校友諸君の特別な
る御同情に訴へ候處恰も大學
令及び高等學校令の發布に際
會致し愈々其設備完成の急を
感ずるに至り益々經費を要し

候場合と相成候に付未申込の
諸君子何卒此際口數の多寡に
關せず奮つて御申込の榮を賜
はり母校の基礎確立に對し特
に御寄與被成下候様茲に重ね
て得貴意候 敬具

大正八年四月

早稻田大學

贊助會委員長 伯爵 松平賴壽
學長 法學博士 平沼淑郎
總長 侯爵 大隈重信

本號「學生會合」欄記事申時後れの感ある者は前號
に掲載すべかりしを記事編輯の爲め本號に廻はす
の止むべからざりしが爲めと讀者及執筆諸君の諒
解を請ふ。
本號も亦記事編輯の爲め「學生會合」欄記事申、次
號に廻はすの止む可らざるに至れる者あり。讀者
及執筆諸君の諒解を請ふ。

大正八年四月十日印刷

大正八年四月十日發行

編輯兼發行人 前田多藏
東京市牛込區白銀町二十九番地三十五號

印刷者 渡邊八太郎
東京市牛込區榎町七番地

印刷所 日清印刷株式會社
府下豐多摩郡戸塚町字下戸塚六百四十七番地

發行所

早稻田大學
早稻田大學校友會

文科校友懇話會

第三回文科校友懇話會左の如く開催致候間御來會希望仕候

日時 四月二十五日(金)午後五時
場所 永樂俱樂部

成るべく晚餐を御一緒に、致度御希望の御方は永樂俱樂部田
村又六氏へ電話(本局二三六及び三八九)その他にて御申通じ置被
下度、尙ほ時間の御都合等にて食後にて成るべく多數御來
會の程希望仕候

發起人

長谷川誠也 宮田 脩 片上 伸
中村 將爲 伊藤 理基 加藤作次郎
原田 實 稻田 讓

本年度尋常小學校卒業生ハ無試験ニテ
入學ヲ許ス

生徒募集 岡崎市 京都中學校

幼年保護ノ爲メ校長ノ學塾トシテ特別
寄宿舎ノ設備アリ

新日本殖民地建設

氣候温和、風光明媚、天產豐饒なる南米の新天地に、吾人は新日本殖民地を建設して同好者と共に永遠に共存共榮の樂しみを分たんと欲す。夫れ殖民事業は富の創造を爲す最高の行爲にして、社會人類の福祉を思ふの資本家及び有爲なる青年の一日も忘る可らざる光榮と利益との源泉なり。富の創造は社會民衆を根柢とせる雄大莊嚴なる思想の表現なり。故に殖民事業は民衆の同情と慾求と努力とを離れて存立す可らず。新日本殖民地の首唱者は多年海外に在りし結果本國に知己を有せず民衆の理解と聲援を得るの關係を缺けり。願くは我が校友各位の深大なる御同情に依りて吾人の熱烈なる希望を貫徹せしめられんことを。吾人の事業の内容及び實質は次の書に依りて御研究あらんことを欲す。

◎日本青年の南米生活（二月發行）

本書は新日本殖民地建設を計劃するに至りし事情及運動を記述せるものにして小説よりも奇にして痛快を極む。

◎新日本殖民地の事業（三月發行）

本書は新日本殖民地の事業を具體的に解説せるものにして殖民事業の得失は本書に依りて明快に指摘せらる。

◎日本人の南米ブラジル（四月發行）

本書は南米ブラジルを各方面より觀察して其驚異すべき富源を説明す。詳密本書に比すべきものは本邦になし。

以上各冊定價送料共壹圓九十錢也

發賣所

鹿兒島縣始振替福岡良郡重富村一〇五二五番

海外發展社

上記各書の著者は我が早稻田大學の校友にして海外に在ること多年支那及歐羅巴を経て南米を遊歴し幾多の辛酸を嘗めて殖民事業の研究を爲せり。熱誠人を動かすべきものあり切に御愛讀を望む著者は旅費を後援して五十名内外の同伴者を得不日出發再渡米せんとす、南米視察希望者は至急申込みあれ、詳細條件は上記書籍に規定せり。上記書籍は會員組織なるが故に書籍店には販賣せしめず。若し校友各位の知人に海外渡航を希望する士あらば必ず先づ上記の書籍を御推薦あらんとを悃望す。

大阪市外中本町中道七四

東京市麴町區元園町一ノ二六

海外發展社大阪事務所
海外發展社東京支局

早稻田大學學生募集

部門專		高等學部					高等師範部
政治經濟科	法律科	政治經濟學科	法學科 (獨法、英法)	文學科 (哲學、英文學、史學及社會學)	商科	理工科 (機械、電氣、探礦、冶金、建築、應用化學)	豫科
第一學年		第一學年第一期					國語漢文科 英語科

◎右記各科共四月廿六日(土)學力考査を行ふ。(中等程度諸學校優等卒業生に限り無試験入學を許す。但し理工科は募集せず。)

◎入學願書は四月廿四日まで受理す。

◎規則は郵券三錢封入請求のこと。

英國製防水保證付

クレイヴネット(裏縞)

レインコート

特價金三十三圓ヨリ

神田神保町角

東京デパート

本局三二四一